

公益社団法人日本看護科学学会
平成29年6月定例（定時）社員総会 議事録

日 時 平成29年6月18日（日）11:00～13:30

場 所 AP 東京八重洲通り

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP八重洲ビル11階

Tel. 03-6228-8109

総社員数：264名

出席社員数：219名（会場91名、委任状128名）

会場出席社員：秋元典子、浅川和美、朝倉京子、足立久子、天野瑞枝、荒尾晴恵、荒木暁子、飯田苗恵、飯野京子、石井邦子、石垣靖子、石橋みゆき、一戸とも子、稲垣美智子、井部俊子、岩永喜久子、上野恭子、遠藤みどり、遠藤芳子、大塚眞理子、小笠原知枝、岡田由香、岡本玲子、小野幸子、掛田崇寛、勝田仁美、門間晶子、亀井智子、河口てる子、木下由美子、荃津智子、小坂橋喜久代、国府浩子、小山眞理子、佐伯由香、定方美恵子、佐藤富美子、清水安子、正野逸子、杉浦太一、鈴木志津枝、祖父江育子、滝内隆子、多喜田恵子、武田利明、田中京子、田中美智子、谷本眞理子、鶴田恵子、泊祐子、中尾久子、中西純子、中村恵子、中村美鈴、檜木野裕美、成田伸、野地有子、野村陽子、早川和生、廣瀬規代美、深田順子、深堀浩樹、本田育美、眞壁玲子、牧野智恵、松浦賢長、三国久美、宮崎美砂子、百瀬由美子、森田夏実、山田律子、山本あい子、吉田俊子、吉田みつ子、良村貞子、渡邊タミ子、綿貫成明、（以上77名・50音順）

出席理事・監事：萱間真美、井上智子、麻原きよみ、勝原裕美子、鎌倉やよい、（うち14名社員） グレグ美鈴、酒井郁子、真田弘美、中山洋子、西垣昌和、西村ユミ、村嶋幸代、山本則子、吉沢豊予子（以上理事）
阿曾洋子 南裕子（以上監事）

議 長：萱間真美（理事長）

議事録作成者：麻原きよみ（総務担当理事）

I. 開会

開会時の会場出席者は正会員数72名（第1号議案開始時91名）、委任状提出者128名。本会定款第23条、24条に定められた要件を満たしているため、公益社団法人日本看護科学学会平成29年6月定例（定時）社員総会は成立した。司会は井上智子副理事長、書記は丸山泰子（聖路加国際大学）、有田孝行（日本看護科学学会）で行われた。

II. 理事長挨拶

萱間真美理事長より、以下の挨拶があった。

学会シーズンのお忙しいこの時期に多くの代議員に集まっただき感謝を申し上げます。本日は、名誉会員の稲岡文昭先生にもご出席いただき、後程、ご挨拶をいただきたいと思う。本日の社員総会では、決算の報告、新しい理事の承認が大きな議題となっており、現理事は本日を持って任期満了、後任の理事に引き継ぐことになる。

2年間様々な議案を抱える中、多くの理事に課題に取り組んでいただいたので詳細は論点整理にて報告し、社員の意見を賜りたい。

なお、名誉会員の飯田澄美子先生がご逝去されたので、ご冥福を祈り、黙祷をささげるとの報告があり、一同「黙祷」を行った。

III. 第37回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

吉沢豊予子会長より、以下の挨拶があった。

第37回日本看護科学学会学術集会は、12月16日、17日の2日間開催する。今回のテーマ

は、「看護におけるダイバシティデザイン～社会が求めるケアイノベーションをめざして～」を予定している。内容としては、特別講演が2題、教育講演2題、シンポジウム2題、教育セミナー4題、パネルディスカッションと盛りだくさんの内容を盛り込んだ。4月3日から一般演題を募集し、締切りを1週間延長した結果、計1030題投稿があり、今後査読に入る予定である。また、今年度から、Nursing Opinion Agora（以下、N-AGORA）を導入し、8題募集したところ9題応募があった。交流集会は、例年より演題数を少なく設定していたが、多くの応募があり、倍率が2倍になっている。開催まであと6ヵ月、皆様の参加、協力をお願いしたい。

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第22条3項に従い、議長に萱間真美理事長が選任された。

議事録署名人は、会場出席者から議事録署名人を募ったが、立候補がなかったため、議長より代議員の岡本玲子氏（大阪大学大学院）、中村美鈴氏（自治医科大学）が推薦され、満場一致で承認された。

V. 報告事項

1. 理事会および社員総会報告 <麻原理事>

1) 理事会報告：議案書（p3-8）に基づき報告がされた。

平成28年度理事会は6回行われ、書面理事会を1回開催した。理事会では、学術集会の準備状況、各委員会からの報告および審議事項、会員の入会審査における承認などについて行っている。

2) 社員総会報告：議案書（p7-8）に基づき報告がされた。

- ・平成28年6月定例社員総会は、報告事項としては総務報告、理事会報告、委員会活動報告を行い、審議事項としては平成27年度決算の承認および会計監査の報告、災害看護支援資金取り崩しの承認、名誉会員の承認がされた。
- ・平成28年12月社員総会は、報告事項としては総務報告、理事会報告、委員会活動報告を行い、審議事項としては平成29年度事業計画案の承認、平成28年度予算案の承認、第39回学術集会会長の承認が行われた。

2. 総務報告 <麻原理事>

議案書（p9）に基づき報告がされた。

会員推移は、平成28年4月1日正会員数7,902名、平成29年3月31日現在8,812名であり、年々増加している。賛助会員増減なし、名誉会員は2名増えた。

3. 選挙管理委員会報告 <麻原理事>

議案書（p11）に基づき報告がされた。

選挙管理委員長高木廣文委員長の元、定款第27条にもとづく理事候補者の選出をWeb投票で行った。

4. 平成28年度事業報告

議案書（p14-21）に基づき、各担当理事より報告がされた。

(1) 第36回日本看護科学学会学術集会開催 <麻原理事>

第36回日本看護科学学会学術集会（JANS36）を岡谷恵子学術集会会長のもと、平成28年12月10日（土）・11日（日）に東京国際フォーラムにて開催した。参加者総数4,306名、演題数1,002題、交流集会52題、ランチョンセミナー4件、市民フォーラム参加者数約236名であった。

(2) 第 37 回・第 38 回日本看護科学学会学術集会準備 <麻原理事>

- ・第 37 回日本看護科学学会学術集会 (JANS37) を吉沢豊予子学術集会会長のもと、平成 29 年 12 月 16 日 (土)・17 日 (日) に仙台国際センター会議棟・展示棟にて開催予定である。
- ・第 38 回日本看護科学学会学術集会 (JANS38) を佐伯由香学術集会会長のもと、平成 30 年 12 月 15 日 (土)・16 日 (日) の 2 日間、ひめぎんホール (愛媛県松山市) にて開催予定である。

(3) 和文誌の発行 ...電子ジャーナル (J-Stage) <山本理事>

和文誌編集委員会を 2 回開催した。新査読ガイドラインに則り、査読システムの効率的運用と質の向上を図った。電子投稿システムが変更になっている。平成 28 年 1 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日の投稿数は 105 編あり、前年の 76 編より増加した。第 36 巻随時掲載の論文数は計 33 編であり、論文公開時には会員に一斉メールを配信した。

新しい投稿システムの投入に伴い、査読過程の変更とそれに伴う微調整を行い、投稿規程、査読ガイドラインの変更をした。また、和文誌編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラムとして、和文誌セミナー「論文の作成・投稿のプロセスと査読のあり方」を平成 29 年 3 月 26 日に開催し、参加者は 90 名であった。

(4) 英文誌の発行 ...電子ジャーナル (Wiley) <グレッグ理事>

Holzemer 編集長来日のもと英文誌編集委員会を 2 回、Web 会議システムを用いた日本語での編集委員会を 1 回、Web による委員会小会議を 1 回開催した。

Japan Journal of Nursing Science Vol.13 No.2~4 および、Vol.14 No.1 をオンラインで発刊した。平成 28 年 1 月 1 日~12 月 31 日の論文投稿数は 339 編であり、年々増加している (前年は 327 編)。平成 27 年に引き続き、ジャーナル・プロモーションのために平成 28 年に優秀賞を受賞した JJNS 掲載論文 4 編をフリーアクセスとした。また、若手研究者支援事業は、募集を行ったが投稿がなく平成 28 年度は中止とした。

機関リポトリジに全文掲載した場合、JJNS に出版できないことを Author Guidelines に明記し、周知を行った。JJNS セミナーおよび JANS36 で JJNS 投稿コンサルテーションを実施した。なお、平成 27 年度の impact factor は、0.458 と昨年より上がった。

(5) 看護学学術振興対策

①看護学学術用語の検討 <高田理事欠席 (萱間理事長代読) >

看護学学術用語検討委員会を 5 回開催した。

本委員会にて検討された学術用語の利用実態を知るための Web 調査を実施した。

看護学における学術用語及び概念開発に関する議論を Web にて発信している。

現行の看護学用語のチェックおよび、新たな看護用語の掘り起しを行った。

②国際活動の推進 (世界看護科学学会を含む) <中山理事>

国際活動推進委員会を 2 回開催した。WANS の事務局も兼ね、HP の管理も行っている。JANS36 において、「看護系大学院におけるグローバル化に関する対応状況調査」をポスター発表し、交流集会では「English session」において看護学のグローバルスタンダードや国際看護学教育について問題提起をし、討論を行った。

また、JANS の HP 内にある異文化データベースの見直し作業を実施した。本件では国際看護交流協会から Nursing in the World を譲り受けることになっており、データベースの再構築化として科学研究費補助金に応募した。しかし、譲り受けが成立せず、応募した科研費も不採択となったため、今後計画を見直す予定である。

なお、第 5 回 WANS 学術集会は、タイで「Thailand Nursing and Midwifery Council」と共同開催を予定している。平成 29 年 10 月 20 日~22 日、Bangkok で開催するため、WANS 事務局と共同で準備を進めている。今回は、WANS の 6 つの団体、JANS からは理事長、その他として日本災害看護学会、日本地域看護学

会、日本赤十字看護学会、ネパール看護協会、シンガポール大学からスピーカーが参加予定である。広報も順調で演題が集まっているとの報告を受けている。

③看護倫理の検討と啓発

学術活動の利益相反（COI）に関する指針および細則の施行

利益相反委員会 <吉沢理事>

役員、委員会委員、和文誌・英文誌投稿者、学術集会の発表者に COI を実施し、評価を行う際、今後外国人が対象となることも考慮し、指針、および細則の英語版を作成した。また、JANS36 の会長をはじめ各講演者や演題登録者、セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。

看護倫理検討委員会 <鎌倉理事>

看護倫理検討委員会を 3 回実施した。研究者が研究活動における不正防止、倫理の遵守に関する実施状況を Web 調査し、調査結果を HP で掲載するとともに、JANS36 交流集会で報告した。また、研究倫理に関する啓発活動として、既存の e-ラーニングを JANS HP にて紹介した。個人情報保護法等の改正に伴う「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の改正に関するパブリックコメント等について検討を行った。

研究倫理審査委員会 <井上副理事長>

期間内に 2 件の審査申請があり、いずれも簡易審査であった。本会委員会活動における調査を対象とした研究倫理審査に関する申し合わせを策定した。

④研究成果の蓄積と活用 <酒井理事>

研究・学術情報委員会を 3 回開催した。平成 28 年度は、「看護・保健分野の政策提言のための研究課題の優先順位の設定および、研究推進の Strategic Plan の設定」を実施した。JANS 会員及び会員外有識者 10 名にフォーカスグループインタビューと、JANS 社員および委員会委員全員を対象にデルファイ法による Web 調査を実施。今後、看護学が優先的に取り組むべき研究課題や整備すべき研究体制を挙げ、本日開催の JANS セミナーにて、調査結果の報告と Web 掲載を行う。

また、JANS が所有している研究リソースのアーカイブ化に着手した。

(6) 学術研究論文の表彰 <真田理事>

表彰論文選考委員会を 3 回開催した。事前にメールにて選考方針、選考基準、選考手順を確認した上で、審査を実施した。対面委員会にて、30 本の候補論文から、候補論文を 8 本に絞り、これらについて、全代議員 264 名と役員にメールで採点依頼を行った。回収率 55%、145 件の評価点を集計し最終選考した結果、優秀賞 2 編、奨励賞 2 編を決定、理事会（10 月 23 日）に報告し、承認を得た。

(7) 学会組織の強化・発展

①若手研究推進委員会の活動の推進 <西村理事>

若手研究推進委員会を対面式で 3 回、Web 会議を 1 回開催した。JANS 若手の会 HP にて、年間の活動について掲載をしている。JANS36 交流集会では、制度・政策策定と研究との連携を意識づける趣旨のもと、「若手研究者の小さな一歩が社会の歩みとなるために」を開催、また、モーニングセッション「偉大なる先輩看護者との交流会」のファシリテーターを務めた。また、委員会活動を紹介し、今後の看護界への夢を記載する活動ブースを設け、結果を HP に掲載した。

平成 27 年度に実施した若手研究者の研究ニーズ調査に基づき、JANS36 にて「若手ステップアップ研修」を開催した。Web 調査の結果を「若手看護学研究者を対象とした研究及び教育活動の支援を目的とした研修ニーズ調査」として、論文化し投稿している。なお、多くの若手研究者のつながりをつくるために、学術集会開催時にオフ会を開催した。さらに JANS 若手の会メーリングリストを活用し、情報の発信を引き続き行っている。

各地域での若手研究者の活動拠点を作るために、エリアコーディネーターをリクルート、今期は15名に依頼し承諾を得ている。こうしたエリアコーディネーターにはJANS36では、若手研究者の活動ブースのサポートやオフ会の企画運営を担ってもらった。JANS37でも交流集会、パネルディスカッションの企画を継続して検討している。

②JANSセミナー <酒井理事>

平成28年6月19日に「介入研究ことはじめーデザインと実施ー」をテーマに開催、会場受講225名、Web受講456名であった、また、平成29年3月19日に「看護研究にいかす統計学の基本」をテーマに開催、会場受講192名、Web受講670名であり好評であった。

③JJNSセミナー <グレッグ理事>

平成28年11月12日に啓発セミナーとして、「Improving Your Success at Publishing in English 2016」を東京で開催。通訳なしであることやワークショップのために人数を絞ったことから42名の参加となったが、参加者には好評であった。

④事務所体制の整備 <麻原理事>

議案書に記載はないが、口頭で報告があった。

就業規則や賃金規程の改正、職務分掌規程の新たな設置などの規程整備により、事務所の職場環境の向上と管理体制の整備に努めた。また、公募により平成28年7月1日から新たな事務所長を採用、同年11月には産休・育児休業に入る職員に代えて契約職員を雇用し、事務所機能の拡充を図った。

(8) 社会貢献活動 <吉沢理事>

社会貢献委員会を2回開催、その他、メール会議を多数実施した。

JANS36では、市民フォーラム「身終い～人生の終え方」に236名の参加、ナーシング・サイエンス・カフェ「看護職を志向するあなたへー看護の多様な働き方を紹介します」には生徒27名、保護者10名の参加があった。昨年から、ナーシング・サイエンス・カフェには、オブザーバー参加として関心のある方々の参加を許可していることも集客につながった。また、JANS37の開催案としては、市民フォーラムは「認知症と共に生きる」、ナーシング・サイエンス・カフェは「コードブルー 救急看護24時」等も検討している。次回の社会貢献委員会へ引き継ぐ予定である。

なお、ナーシング・サイエンス・カフェは学術集会時に開催すると参加対象者である学生の試験と重なるため、今後は開催時期の検討も必要である。市民フォーラムに関しては、開催地域住民だけではなく、日本全国に向けて、参加、公開できる方法はないか、次の委員会へ引継ぎたい。

(9) 広報活動 <勝原理事>

広報委員会を3回開催した。JANS研究論文を実践へトランスレーションする新企画として、広く市民に向けて看護の知識を普及させることを目的とし、JANSで過去5年間に優秀賞・奨励賞を受けた研究論文について、著者自らがHP上で解説するという企画を行った。6月13日にHP上にバナー「看護研究の玉手箱」としてアップした。過去5年間18論文のうち15論文から掲載許諾を得て、

①一般の方がわかる内容での解説

②必要であれば、スライド形式の解説

③原著論文へのリンクの3つの構成で掲載した。英文論文については、日本語で解説が読めるメリットがある。

また、学術集会企画委員会や、社会貢献委員会と連携し、支援する広報活動を行った。

学会HPについては、随時更新し「バナー」および「メニュー」の整理、変更を実施した。学術集会の記録写真を掲載している。なお、外部からリンクを張る依頼があ

った際、従来は広報委員会、理事会を通して確認をしていたが、受諾の是非に関する基準を作成した。

(10) 災害看護支援事業（日本看護系学会協議会との共同事業による） <中山理事>

日本看護系学会協議会（JANA）と連携した助成事業は、5年間の活動をもって終了した。災害等の緊急事態が発生した場合は、臨時委員会を組織するなどして対応していく。募金口座の残金 78,472 円は公益社団法人熊本県看護協会へ寄付した。今後の課題として、規程等を見直すなどの検討とともに、JANS 独自でどのような方向性で進めていくかについて議論していく予定である。

(11) 他機関との連携活動

①日本看護系学会協議会（JANA） <井上副理事長>

平成 28 年度総会に出席し、役員選挙に関わる推薦を行った。また、新規事業である医療事故報告制度の支援の一貫として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの個別案件の委員の推薦依頼があり、4名の委員を推薦した。

②看護系学会等社会保険連合 <西垣理事>

研究・学術情報委員会が担当している。昨年度までは、理事会に役員として出席した。また、社員総会にはオブザーバーで参加している。診療報酬・介護報酬同時改訂に向けての委員会に主に参加をした。なお、同連合が実施する平成 29 年度研究助成への応募は、4件を審査し、1件の承認を行った。

③日本学術会議 <井上副理事長>

日本学術会議との連携を担当し、提供のあった日本学術会議ニュース・メールを役員に提供した。

[総務報告・選挙管理委員会報告・平成28年度事業報告の質疑]

質問、意見なし。

VI. 審議事項

第1号議案 平成28年度決算の承認および会計監査の報告 <村嶋理事>

平成28年度決算について、議案書（p26-38）に基づき報告があった。

まず「収支計算書」の説明があった。注記(※1-24)の内容はp38を参照のこと。

「事業活動収入」の正会員は87,990,000円、賛助会員の300,000円を合わせて88,290,000円の会費収入であった。平成28年度の会費納入率は97.6%であり、非常に高い納入率である。学会誌収入は和文誌の無料公開（オンラインジャーナル化）により定期購読の減収を想定していたが、結果は予算を上回った。

JANSセミナーの受講者の増加により収入が増加している。学術集会（JANS36）の収入は、参加者の増加および、企業の協賛金、寄付金が多く予算を約650万円上回った。以上合わせて事業活動収入合計は156,020,366円であった。

「事業活動支出」の事業費支出は、学会誌発行費支出が増加しているが、これは英文誌の投稿数が前年度より増加したこと等によるものである。編集活動費支出、看護学術振興費支出は主に委員会活動に関する経費であるが、委員会の運営方法の検討とメールやWeb会議を取り入れたことや交通費の節約などにより、予算を下回ったものである。研究学術活動費支出はセミナーの開催費等であり、ほぼ予算通りの執行となっている。社会的活動費は、社会貢献活動、広報活動が主な支出でこれも予算内での執行となった。学術集会支出は予算を下回ったが、会場費用や運営業者への委託費、その他の諸経費を抑えることにより生じた差額であり、収入と支出合わせて1,400万円ほどの剰余金額が発生した。事業費支出の総額は79,264,993円であった。管理費支出の合計は52,032,296円で、その他、資格喪失者や税金を合わせた事業活動支出合計は133,757,589円となり、事業活動収支差額は22,262,777円となった。ここから投資活動

収支と財務活動収支の合計を差し引いた当期の収支差額は20,216,145円となった。この金額に基金（72,926,624円）を含む前期繰越収支差額の93,925,170円を加えた114,141,315円が次期繰越収支差額となった。

次に「貸借対照表」について、資産合計150,620,744円から負債合計25,476,050円を差し引いた正味財産合計は117,943,090円となっており、基金72,926,624円を含んでいる。また「貸借対照表内訳表」には部門別会計の残高が明示されており、JANSは公益目的事業会計と収益事業会計、法人会計の3部門での会計区分となっている。

続いて「正味財産増減計算書」について説明、これは1年間の損益を明らかにして、期末の正味財産の残高を示しており、期末の正味財産の残高は貸借対照表の正味財産と同額の117,943,090円となっている。内訳表は貸借対照表と同様、部門別会計の残高が表示されている。今年度の正会員受取会費は公益目的事業会計に40%を、法人会計に60%を計上した。また、公益法人会計基準では収益会計から公益会計に一定金額を繰り入れることが認められており、平成28年度は約900万円を繰り入れた結果、税金が70,300円であったこと等の説明があった。

その他、財務諸表における注記に会計方針の記載、特定資産の内容と増減、固定資産の減価償却等が示されていること。財産目録では各金融機関への預入状況や未収金、前払費用等の流動資産の詳細、特定資産や什器備品など固定資産の詳細、前受会費や未払費用等の流動負債の詳細、引当金やリース債務の固定負債の詳細が記載されていることが述べられた。なお、各金融機関の残高の照合に関しては、定期的に会計担当の理事も確認していることが報告された。

[平成28年度決算承認について質疑]

意見、質疑なし。

監査報告 <南監事>

議案書（p39-41）に基づいて以下の報告があった。

1)独立監査人の監査報告

独立監査人による監査報告が読み上げられ、説明された。

2)監事による監査報告

監査報告書に基づき報告された。

[第1号議案について質疑応答]

質問、意見なし。

第1号議案は、過半数の賛成により承認された。

続いて、平成29年度予算の補正について会計担当の村嶋理事から報告があった。

（議案書p22-24）

平成29年度予算は昨年12月の総会にて承認を得ているが今回2点の変更があるため報告された。

- ・ 寄付金、助成金収入：当初150万円を計上していたが、科研費の不採択により取り消しとなった。（削除）
- ・ データベース構築事業費：見込んでいた150万円の科研費の不採択により取り消しとなった。（削除）
- ・ 英文誌編集費支出：当初予算では、1,583万円を予定していたが、投稿数が増加に伴い編集経費が毎年予算を上回るため編集委託契約を見直した結果、1,730万円に変更した。

[平成29年度補正予算について質疑]

質問、意見なし

第2号議案 理事選任案の承認 <萱間理事長>

議案書（p43）に基づいて、以下の報告があった。

選挙管理委員会から報告されたように、2月に実施したWeb選挙の結果を元に、理事候補者名簿が作成され、選挙管理委員会から理事会へ提出された。理事会では、これを参考に、理事会で理事選任案を作成した。

本日、選任される理事は15名以内、任期2年となる。定款23条4項により、役員を選任は社員総会において、候補者ごとに決議を行う。

なお、決議は配布されているマークシート式投票用紙にて行う。

（記入方法の説明あり）

[投票結果について]

219名（委任状128、出席代議員91名）

定款23条第1項の規定により、以下の理事候補者が、出席した代議員の議決権の過半数以上の信任を得たため、議長が一人ひとりの名前を読みあげ報告した。

秋元 典子 氏	高田 早苗 氏
石橋みゆき 氏	田中 真琴 氏
江藤 宏美 氏	中山 洋子 氏
鎌倉やよい 氏	西村 ユミ 氏
小山真理子 氏	宮下 美香 氏
佐伯 由香 氏	村嶋 幸代 氏
真田 弘美 氏	山本 則子 氏
須釜 淳子 氏	以上、15名

上記の候補者について、過半数以上の信任を得たため、承認とする。

なお、定款28条第1項および第2項により、現理事が本定例社員総会終結をもって退任し、新理事が就任される。

監事は任期4年のため、現監事が継続となる

第3号議案 名誉会員の承認

議案書（p44）に基づき説明された。

定款の規定と理事会の申し合わせに基づき、本年は、川村佐和子先生、小島操子先生を名誉会員として推薦申し上げたい。

[第3号議案について質疑応答]

質問、意見なし。

第3号議案は、賛成多数で承認された。

なお、冒頭の理事長挨拶でも紹介された名誉会員の稲岡文昭先生より、以下の挨拶があった。

名誉会員：稲岡文昭先生による挨拶（質疑・意見を含む）

10年前に名誉会員となり、昨年、JANS36でモーニングセッションに参加する機会を得たため、事前に情報を得る目的でJANSのホームページを見た。

その際の疑問点について2点質問したい。1点目は、投稿規程、査読ガイドライ

ンなどが詳細に記載されていたが、実際の投稿を見ると学位論文の投稿について、著者のみで掲載する力がなく、2名または3名の名が掲載されている点について違和感があった。コロンビア大学の修士課程においては、学位論文は院生が自立して書くものであり（着想から分析まで）、教授は助言や指導をするが共同研究者ではなく、院生自身の研究であると言われ、投稿は単著であると30年以上前に指導を受けた。

自分が以前に学会誌編集長を行っていた時も、暗黙のルールとして、原則単著が望ましいと貫いてきた。任期満了においても、看護研究に教えるものと教えられるものは役割が違うとの意見を述べたことを覚えている。2点目は、この件について、現在の投稿規程によると指導教授が含まれている。自分が関わった院生のことを思い返して考えると、院生より、指導教員のほうが適切な助言をするために熟知していることもあるが、ほとんどが単著での投稿であった。このことについて、編集委員会または、規程を変更する際に学会の中で十分な議論をされているのか、お聞かせ願いたい。

<回答1>

自分が編集委員長を引き受けた際には、著者に関する投稿規程がなかった。そのため、それ以前のことについては、過去の編集委員長にも伺いたい。現在の編集委員長として、本指摘について考えると、本学会は、多様な研究方法と多様な背景をもつ研究者が投稿している。この2年間投稿を拝見し、それぞれに流儀があるように思っている。明らかに、学位論文と思われるものを単著として投稿しているものもあれば、指導教員との共著でも投稿しているケースもある。特に、著者に関しての規程を設けていないため、受け取った形で審査を行っていた。しかし、指摘を頂いたので、次回の編集委員会での議題として検討したい。

（山本理事）

<意見>

おそらく、オーサーシップのことは規定されていなかったように思う。過去、指導教員が修士論文を単著で盗用し、投稿した問題などが発生した経緯があり、明瞭にする必要があったから作られたと思う。多様な研究方法があるからこそ、指導教員が学位論文を共著で投稿してよいか否かは、今後じっくりと審議をしていただければと思う。（稲岡名誉会員）

<回答2>

JJNS編集長のHolzemer先生も、博士は自立して出版することが出来なければならぬため、博士論文については単著が原則であると稲岡先生と同様の発言を編集委員会でされている。しかし、日本の大学においては、風土も指導教授の考え方も異なり、博士論文であってもたくさんの方が名前を連ねるという大学もある。オーサーシップの考え方を明確にすることは大切であるが、大学によって考え方は様々であるため、ジャーナルとして規定することは難しい。

（グレッグ理事）

<意見>

大学で異なる考え方があるのもわかるが、個人的な意見を言えば、JANSは1つのモデルになる学会として、JANSとしての見解を公に議論して欲しいと思う。そして、総会で発表してもらいたい。（稲岡名誉会員）

<回答3>

自分は、一期前の和文誌編集委員長であったが、その時も、オーサーシップに関して、明確に制限するような文言は無かったと記憶している。稲岡先生の懸念は、意識の問題であると思う。指導教員が学生に無断で共同研究者として発表することは研究不正につながるのだから、研究のオリジナリティーや誰が発表するのか、

オーサーシップに関しても本学会でセミナーを実施してきたが、引き続き、啓発活動を行っていききたい。また、本日ご提案いただいた件についても、引き続き検討していききたい。（萱間理事長）

<意見>

事務局体制の強化・充実について説明があったが、事務所長ならびに、事務職員の紹介などをしてみては、親近感が沸くのではないか。

<回答>

事務所職員7名がそれぞれ氏名と担当業務について報告、自己紹介を行った。

Ⅶ. 今期理事会の論点整理 <萱間理事長>

議案書（p47-53）に基づいて、説明を行った

これまでの理事会からの引継ぎ事案とそれを踏まえた今期の活動、現在残っている課題について論点整理したものを報告する。前小松理事長より引き継いだ大きな課題は、JANSの経済的基盤が不安定であったことと若手育成についてであった。経済基盤についてはここ数年、学術集会は収入が費用よりも多く黒字の状況が続いていること、学会誌に代表される様々な電子化、正会員数の増加等で収益が生じ、団体としての財務状況は好転しつつある。若手育成としては、JANSセミナーを定例化し、年2回の開催と、加えてWeb参加の実施で若手研究者の参加を促進、併せて若手研究推進委員会の活発な活動がそれを支えている。今後の課題としては、何らかの政策提言を行うことが期待される。

学会としては順調に正会員数を伸ばし過去5年で25%増となっており、1万人を超える日を見据えた活動を考えなければならない。巨大な学会組織となるため、運営について検討する必要がある。今期意見が出たのは、海外会員について、現在は東京の島しょ部の地区に組み込まれており、代議員選挙では東京地区の中で選挙を行うことになるが、今後は海外で活動している貴重な意見を吸い上げるということを考える意味で、海外会員から代議員を選出できるシステムを考える時期ではないか。また、財務状況についてここ数年黒字が確かとなってきたが、約7,200万円は基金であるため、それを除く約4,100万円の繰越金がある。これは、引き続き安定した学会運営を前提として、若手育成、特に、ポストクや研究発表への助成金など、公益事業での用途を検討する時期ではないかと考えている。

続いて、「公益事業の実施状況と今後の論点」について説明を行った。

若手推進委員会は常置の委員会として日本学術会議の若手アカデミーとの連携を取りつつ学会運営に理事が参加している。JANSセミナーの1回分は、同委員会が運営し、若手のニーズに答え、一方でネットワーク形成も活発に行っている。今後は若手研究者グループからの発信を期待している。

セミナーについては、参加人数はWeb受講者も含め、延べ2,874名で、いずれも好評を得ており、募集を始めると即日定員が埋まる状況である。本学会への信頼度の表れでもあると考えられる。今後は様々な委員会が横断的に企画委員会を組織し、系統的にセミナーを開催していく必要があるということが課題として残っている。

看護学の優先課題については、今期、委員会において、有識者のインタビュー、代議員、委員等へのデルファイ調査を行い、結果をシステマティックレビュー、大規模コホート研究、学際的研究の重要性が認知されていたという結果となった。これらの課題に対して、学会としてどのように研究活動を行うのか、今後具体的に検討をしていく必要がある。たとえば、財政状況の兼ね合いを考え、研究課題への独自の助成、留学支援、生涯学習の機会の提供など、人材育成支援も考えられる。

国際活動については、WANSの事務局運営を公益事業と位置付けて正式に登録

し行っている。従って国際学術集会においても、事務局としての機能を果たしていくこと、会員間のグローバルな情報交換など、海外の学術団体とのネットワークづくりは課題であろう。

学術誌については、先ほどの稲岡先生からもご意見をいただいたが、JANSにとって非常に重要であり、特に英文誌をもっていることは大きい。英文誌の発行は、編集長、編集委員長、編集事務局が相当の時間と費用かけて実施している。財政難の時には、投稿料を徴収してはとの議論も何度もされたが、現時点では、徴収しない方向で運営している。編集費用を学会が全額負担をしているが、海外からの投稿は、会員に限定せず受け入れている。その際の費用を学会が負担することについて議論し、本学会の英文誌、和文誌を合わせた発行費用の上限を正会員収入の30%として考え、これ以上となる場合は、再度見直すこととした。

学術集会について、今理事会ではJANS35（広島国際会議場）が参加者3,736名、JANS36（東京国際フォーラム）が参加者4,306名で開催され、たいへん盛況であった。学術集会が大規模になると、それに応じた会場の選択が必要になり、大きな会場では運営委託業者が指定されていることもあり、その業者が必ずしも良いパートナーとなり得ないこともある。学術集会長はこうしたことでたいへん苦慮する場面も見られた。学術集会は学会の公益事業の柱であり、学会事務所の関与も年々大きくなっているが、今期は、事務所機能とスタッフの充実を図り整備を進めてきた。学会事務所ではこれまでの様々な情報の蓄積があるので、各運営事務局と情報共有し、有効活用ができる仕組みづくりや、運営事務局のサポートを今まで以上に考えていく必要がある。また、抄録アプリの導入は、JANS35からの複数年契約により機能の充実ができた。JANSの学術集会は、他の看護系学会が学ぶことのできる先端を担う役割を持っていると考えており、本年のJANS37においても、デジタルポスターの導入、N-AGORAの実施など、様々な試みがある。学術集会長は、常に資金繰りのことで苦勞している状況であり、先端的な役割を担うことと、資金の工面の両方のバランスがとれていなければならない、それらを学術集会長だけに負担をかけるのではなく、参加費についても適切であるかなど検討をしていく必要がある。

公開講座の運営については、今期の「看護研究の玉手箱」の公開（Web上）は画期的なことであり、一般市民に向けてこうしたわかりやすい発信を続けていくことは重要である。また、高校生を対象とした「ナーシング・サイエンス・カフェ」の開催は魅力的な企画であるが、毎回、開催時期が期末テストと重なり参加が難しい状況となっている。今後は、夏季に開催するなど、学術集会と切り離し、高校生の都合に合わせた実施を検討しても良いのではないかと考えている。

社会情勢と学会の役割については、災害支援はJANSとして日本看護系学会協議会との協働を解消し、学術団体としてJANSが災害時にどんな体制をとり、どのような貢献するのかについては、諸規程の整備を含め早急に考える必要がある。現在の社会情勢は、大規模災害、経済や政治の変化など様々な動きがある。これについても、JANSは学術団体としての意見をタイムリーに発信する必要がある。

現在のトピックスとして「軍事的安全保障に関する声明」が出されており、共通認識の形成を呼びかけられているが、これについても、JANSは会員との真摯な議論が必要と考えている。

社会への配信については、平成4年に「脳死及び臓器移植に関する重要事項についての見解」から、平成21年の「研究活動にかかわる不正行為への対応」まで、社会との関係や責務について態度を示してきた。これらの声明は社会的にも非常に影響力があったと思っている。併せて、今期理事会では利益相反の申告を開始、看護倫理検討委員会での「JANS会員における研究不正防止活動及び研究倫理順守の状況」の調査結果を経て、平成29年2月「人を対象とする医学系研究倫理指針の改

定」が行われ、個人情報扱いなど多くの課題が出た。これらについて、JANSは会員へ情報提供を行う必要がある。先ほどのオーサーシップの議論も行われたが、看護研究において、どのように倫理教育を行い、学会自体がどのような指針を持って活動していくのか議論を進めたい。今後、社会的な使命などについても昨年12月の社員総会でも取り上げたが、看護学の研究者集団として、社会情勢、市民へのニーズに対しての見解は、絶えず示していかなければならないと考える。これらについても、合意形成のプロセスを経て、積極的に行っていくために、情報収集・整理・発信のシステムを整備していくが、何よりも社員の意見が必要であるため、今後も貴重な意見を賜りたい。

【論点整理について質疑応答】

＜質問＞

会員数が増え驚いているとともに、運営サイドに感謝申し上げる。これだけ大きな学会になってきたのであれば、活動視野に「世界」をもっと入れたら良いと思う。日本国内でも、若手研究者育成の若手アカデミーに委員長が出席しているようだが、たとえば、そこの接点として、どのような動きを考えているのか。日本学術会議は世界ともつながっているため、具体的な活動について紹介してほしい。

また、海外とのネットワークが不十分とのことであるが、WANSはこうしたとのネットワークに有効だと思う。WANSに所属している他の学会との関わりがあると思われるが、そこがもっと活発に活動できたら良いのではないかと。学术交流など、日本からどのような知見を海外に発信をしていくのか意見を聞きたい。

今年はWANSがタイで行われるが、理事長選挙も予定しているのか。その件について、JANSはどのように考えているのか、私は現理事長の南先生に継続して兼任をしていただきたいと思う。以上の3点についてご回答願いたい。

＜回答1＞

若手研究推進委員会は、学術会議若手アカデミー（かつては本アカデミー設置に向けた委員会として存在していた）設立前より関与していたが、2年ほど前に委員会として若手科学者ネットワークのメーリングリストに登録し、年間様々な情報を受けて必要なものを会員に配信をしている。

昨年度は、若手アカデミーが開催した国内のシンポジウムに参加し、各学会の若手の会のメンバーと議論を交わした。海外とのつながりは、学術会議若手アカデミーがヨーロッパ諸国との交流を積極的に行っており、そこから情報を得ている。JANSが若手アカデミーと共に諸外国へ訪問するなどの活動は現時点では行っていない。次期の活動については、頂戴した意見をもとに海外の様々な活動も視野に入れていきたい。（西村理事）

＜回答2＞

日本学術会議の件は、JANS36の際に講演をしていただいた国連グループより、様々な研究グループが作られているため、看護からも参加して欲しいと要請があった。このように、研究の様々な場に結びついていくことも、一つの海外への発信になると考える。（萱間理事長）

＜回答3＞

WANSは、JANSから始まった組織であるため、運営はこれからもJANSで維持していく。最初の国際学術集会は1992年に開催された。多くの先生方がご尽力され、国際的な視野と活躍の場を今後考え、人材育成も視野に入れていく中で、英語で発表する機会が必要であると提言されていた。時代と共に様々なところで国際学術集会在開催されるようになり、発表の機会が増えてきている。

2009年にWANSの第1回が開催され、今年は第5回（2年毎の開催）となる。WANSの

理事長のご提案があったが、第2回のWANS学術集会（Cancun, Mexico）の時に理事長の任期を定め、第4回の学術集会（Hannover, Germany）の時に南理事長の任期を延長した。今後、JANSを基盤に発展していったWANSをどのように継続していくか南理事長とも検討をしている。WANSの17の団体との議論が必要であるが、今後もJANSが事務局を担う必要があるだろう。

海外の会員から会費を徴収することは、現状からすると難しい部分もあり、もう少し検討を重ねるべきである。また、前回大会も日本から70名の参加があり、会員が海外で発表する機会を持つことは若手育成のためにも必要で、財政的にも安定しているJANSがWANSの運営を担うことが妥当と考え、JANSの会員または理事がWANSの理事長を担うことが良いと考える。この件は、理事会にも提案をしている。

なお、WANS理事長を海外の学会に渡すことも可能であり、希望する学会もあるが、私見を含めこれまでの経緯を鑑みると、もう少し、JANSが担うことを検討しながら進めていきたい。（中山理事）

<回答4>

WANSの理事長として発言する。様々な学会が国際学会を設立する中で、日本学術会議とのつながりを目的にWANSが設立された。日本学術会議の中に立つと、世界のいろいろな学会、事務局の母体を持つ学会が国際的な連合体を保有し参加しているが、そこに看護は一つも参加していない状況があった。学問の世界から政策提言をしていく組織であるためには、そこに加入しなければならない。

しかし、そういったことに看護界の自覚が乏しく、どの学会もチャレンジしていなかった。こうした経緯があって、JANSがあえて外に組織を形成したのは、他の国際学会と異なり、他の学問分野と同様に学者のコミュニティー組織を作っていく必要があったためであった。その他に日本から発信してできた学会として、WSDN（世界災害看護学会）がある。なお、WANSの特徴として、参加は個人単位だが、会員としては組織会員しか加入できない。会費は組織単位となっているため、会費を集める際に、組織自体が弱小でお金がない場合があり、資金を集めにくい状況である。団体組織だけでWANSが運営できるのか、他の学会では、組織会員と個人会員の両方をもって、世界的な組織として存在し、政策提言を行っている場合もある。自身、WANSの理事長であるが組織改正や資金が集めにくい状況は続いており、学術集会を開くことで、なんとかお互いの横のつながりを維持している状況であり、WANSならではの画期的な活動には至っていない。

今後は、世界の学術会議のメンバーになるよう気運を高めたいと考えているが、まだ課題が山積している。今年のバンコクでの開催までに、何らかの提言をしたい。

若手との関係に限らず、世界の学問領域は速いスピードで国連と連携している。国連の中に科学者コミュニティーがあり、持続可能なソサイエティなどがあり、学者はそこで競い合ってポジションを得て、発信し提言している。看護だけでなく、医師職も一緒の場で個人的努力で食い込んでいける研究者、若い科学者の中で、内向きでなく外向きの研究者をJANS、WANSで育てていきたい。（南監事 WANS理事長）

VIII. その他

特になし

IX. 閉会

出席者は本学会全社員264名中、会場参加者数91名、有効委任状128名で、有効出席者数219名であったことが報告され、平成29年6月定例（定時）社員総会を閉会した。

定例社員総会終了後に開催された新役員による理事会において、新理事長として鎌倉やよい氏、副理事長として山本則子氏が選定された旨の報告がなされた。

新理事長の挨拶（鎌倉理事長）

第34回日本看護科学学会学術集会会長を務めた後に、2年間JANS理事として活動してきたが、このたび、理事長の指名をいただき、その責任の重さをあらためて感じつつ、JANSをしっかりとけん引していきたい。これからのJANSの方向性については、萱間前理事長からわかりやすく論点整理としてまとめていただいた。これを基盤にしつつ、学術の成果や看護の成果を広く国内、海外に発信することで、その成果が社会に還元され、社会貢献につながる活動を展開していくことが重要であると考えている。

また、これから委員会の構成も行っていく中で、JANSの社員である代議員の先生方にも大いに活動いただける場を提供したいと考えているので、引き続きご協力をお願いしたい。

この議事録が正確であることを証するため、議長および議事録署名人により以上の議事を認め、記名押印する。

平成29年 8月4日

議長 萱間真美 印

議事録署名人 岡本玲子 印

議事録署名人 中村美鈴 印

印

印

印

公益社団法人日本看護科学学会 平成29年6月定例社員総会 議案書

日時 平成29年6月18日(日) 11:00～13:30(予定)

場所 AP 東京八重洲通り

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP八重洲ビル11階

Tel. 03-6228-8109

【議事次第】

I. 開会

II. 理事長挨拶

III. 第37回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 報告事項

1. 理事会および社員総会報告

2. 総務報告

3. 選挙管理委員会報告

4. 平成28年度事業報告

(1) 第36回日本看護科学学会学術集会開催

(2) 第37回・第38回日本看護科学学会学術集会準備

(3) 和文誌の発行 …電子ジャーナル(J-Stage)

(4) 英文誌の発行 …電子ジャーナル(Wiley)

(5) 看護学学術振興対策

① 看護学学術用語の検討

② 国際活動の推進(世界看護科学学会を含む)

③ 看護倫理の検討と啓発

④ 研究成果の蓄積と活用

(6) 学術研究論文の表彰

(7) 学会組織の強化・発展

① 若手研究推進委員会の活動の推進

② JANS セミナー

③ JINS セミナー

④ 事務所体制の整備

(8) 社会貢献活動

(9) 広報活動

(10) 災害看護支援事業(日本看護系学会協議会との共同事業による)

(11) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

② 看護系学会等社会保険連合

③ 日本学術会議

(12) 平成29年度収支予算の一部変更

VI. 審議事項

第1号議案 平成28年度決算の承認および会計監査の報告

第2号議案 理事選任案の承認

第3号議案 名誉会員の承認

VII. 今期理事会の論点整理

VIII. その他

IX. 閉会

公益社団法人日本看護科学学会 役員

理事長 萱間 真美

副理事長 井上 智子

理事：麻原きよみ、勝原裕美子、鎌倉やよい、グレッグ美鈴、酒井 郁子、
真田 弘美、高田 早苗、中山 洋子、西垣 昌和、西村 ユミ、
村嶋 幸代、山本 則子、吉沢豊予子

監事：阿曾 洋子、南 裕子

名誉会員

稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、金川 克子、川嶋みどり、小玉香津子、
近藤 潤子、中島紀恵子、林 滋子、樋口 康子、日野原重明、前原 澄子、
松野かほる、矢野 正子、山崎 智子

賛助会員

(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、ヌーヴェルヒロカワ、
(株)へるす出版

(以上、五十音順・平成29年4月30日現在)

日本看護科学学会学術集会会長

第37回学術集会会長 第38回学術集会会長 第39回学術集会会長

吉沢 豊予子

佐伯 由香

石垣 和子

社員

【北海道】

石垣 靖子
稲葉 佳江
大日向 輝美
河口 てる子
河原田まり子
荃津 智子
中村 恵子
松浦 和代
三国 久美
矢野 理香
山田 律子
良村 貞子

【東北】

朝倉 京子
一戸 とも子
遠藤 芳子
小野 幸子
工藤 せい子
佐藤 富美子
塩飽 仁
武田 淳子
武田 利明
原 玲子
布施 淳子
古瀬 みどり
眞壁 玲子
宮下 光令
吉沢 豊予子
吉田 俊子

【関東A】

飯田 苗恵
岩永 喜久子
上野 恭子
内田 陽子
角田 直枝
金子 昌子
加納 尚美
川口 孝泰
神田 清子
近藤 浩子
佐藤 正美
佐藤 由美
鈴木 純恵
中村 美鈴
成田 伸
春山 早苗

廣瀬 規代美
福島 道子
森 千鶴
横山 京子
吉田 久美子

【関東B】

青木 きよ子
荒木 暁子
荒木田美香子
石井 邦子
石橋 みゆき
太田 喜久子
大塚 眞理子
叶谷 由佳
黒田 久美子
黒田 裕子
酒井 郁子
坂上 明子
佐藤 紀子
佐藤 まゆみ
諏訪 さゆり
田高 悦子
谷本 眞理子
手島 恵
長江 弘子
野地 有子
正木 治恵
眞嶋 朋子
増島 麻里子
宮崎 美砂子
宮脇 美保子
森 恵美

【東京A】

吉田 千文
麻原 きよみ
泉 キヨ子
井上 智子
井部 俊子
及川 郁子
上別府 圭子
亀井 智子
萱間 真美
齋藤 やよい
眞田 弘美
武村 雪絵
田代 順子
永田 智子

西村 ユミ
深堀 浩樹
堀内 成子
前田 樹海
丸 光恵

森田 夏実
山本 則子

【東京B】

秋山 正子
飯野 京子
柏木 公一
香春 知永
川野 雅資
北 素子
洪 愛子
佐々木 幾美
佐藤 紀子
志自岐 康子
高田 早苗
武田 祐子
鶴田 恵子
野末 聖香
平野 かよ子
福井 トシ子
本庄 恵子
宮子 あずさ
守田 美奈子
吉田 みつ子
綿貫 成明

【甲信越】

浅川 和美
阿部 正子
遠藤 みどり
小林 たつ子
小林 康江
定方 美恵子
清水 嘉子
水野 恵理子
渡邊 タミ子
渡辺 みどり

【北陸】

稲垣 美智子
上野 栄一
川島 和代
紺家 千津子
須釜 淳子
平松 知子

牧野 智恵

【東海】

會田 信子
足立 はるゑ
足立 久子
天野 瑞枝
池松 裕子
太田 勝正
大津 廣子
大西 文子
岡田 由香
門間 晶子
勝田 仁美
鎌倉 やよい
紙屋 克子
北山 三津子
黒江 ゆり子
小松 万喜子
杉浦 太一
鈴木 みずえ
多喜田 恵子
滝内 隆子
深田 順子
古田 加代子
本田 育美
村本 淳子
百瀬 由美子
柳澤 理子
山内 豊明
山田 紀代美

【近畿A】

青山 ヒフミ
阿曾 洋子
荒尾 晴恵
安藤 幸子
上野 昌江
江川 幸二
小笠原 知枝
北村 愛子
工藤 美子
グレッグ美鈴
河野 あゆみ
坂下 玲子
佐藤 禮子
清水 安子
鈴木 久美
鈴木 志津枝

高見沢恵美子
田中 京子
泊 祐子
檜木野 裕美
簗持 知恵子
早川 和生
林 優子
藤原 千恵子
法橋 尚宏
増野 園恵
町浦 美智子
松田 宣子
森 菊子
山本 あい子

【近畿B】

江川 隆子
遠藤 俊子
岡山 寧子
桂 敏樹
我部山キヨ子
河原 宣子
北島 謙吾
小坂橋喜久代
田村 恵子
西田 直子
任 和子
野村 陽子
星野 明子
若村 智子

【中国・四国】

秋元 典子
池添 志乃
植田 喜久子
岡本 玲子
雄西 智恵美
掛田 崇寛
國方 弘子
小山 眞理子
佐伯 由香
島内 節
新道 幸恵
祖父江 育子
竹崎 久美子
田中 マキ子
近田 敬子
津島 ひろ江
時長 美希

中西 純子
中野 綾美
中山 洋子
西田 真寿美
乗松 貞子
深井 喜代子
藤田 佐和
保科 英子
南 裕子
宮腰 由紀子
宮下 美香
森本 美智子
森山 美知子
山勢 博彰

【九州・沖縄】

宇佐美しおり
宇都 由美子
浦田 秀子
大池 美也子
岡崎 美智子
奥 祥子
小野 ミツ
嘉手苺 英子
木下 由美子
金城 芳秀
国府 浩子
佐藤 香代
正野 逸子
田中 美智子
堤 由美子
寺町 芳子
中尾 久子
鳩野 洋子
東 サトエ
日高 艶子
藤崎 郁
藤田 君支
前田 ひとみ
松浦 賢長
松尾 ミヨ子
三重野 英子
村嶋 幸代

以上、264名
地区別
五十音順

(平成29年4月1日現在)

公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 12 月 9 日)

平成 28 年度第 1 回理事会

日 時：平成 28 年 5 月 22 日（日） 13：00～17：30

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 11 名、監事 1 名、第 36 回学術集会会長、第 37 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 36 回 日本看護科学学会学術集会 (JANS36) の準備状況
2. 第 37 回 日本看護科学学会学術集会 (JANS37) の準備状況
3. 各委員会からの報告および審議事項
 - 1) 総務委員会
 - 2) 和文誌編集委員会
 - 3) 英文誌編集委員会
 - 4) 研究・学術情報委員会
 - 5) 国際活動推進委員会
 - 6) 看護学学術用語検討委員会
 - 7) 看護倫理検討委員会
 - 8) 社会貢献委員会
 - 9) 表彰論文選考委員会 (山上の光賞推薦結果報告含む)
 - 10) 広報委員会
 - 11) 若手研究推進委員会
 - 12) 利益相反委員会
 - 13) 研究倫理審査委員会
 - 14) 災害看護支援事業専門委員会 (災害看護支援事業資金取崩の承認)
 - 15) 他団体との連携について
 - ・日本看護系学会協議会 (選挙管理委員推薦について)
 - ・看護系学会等社会保険連合 (看保連)
4. 本会の公益性について
5. 名誉会員の推薦について
6. 平成 28 年 6 月定例社員総会の議案の承認と進行分担表の確認
 - 1) 平成 27 年度事業報告の承認
 - 2) 平成 27 年度決算の承認
 - 3) 監査報告
7. 就業規則、給与規程、慶弔規程変更案および職務分掌規程の承認

8. 正職員(事務所長)の採用についての承認
9. 入会希望者の承認

平成 28 年度第 2 回理事会

日 時：平成 28 年 6 月 19 日（日） 10：00～10：50

場 所：AP 東京八重洲通り 11 階 O ルーム

(東京都中央区京橋 1 丁目 10 番 7 号 KPP 八重洲ビル 11 階)

出席者：理事 13 名、監事 2 名、第 37 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 平成 28 年 6 月定例社員総会議案について
 - 1) 平成 27 年度事業報告の承認
 - 2) 名誉会員推薦の承認
 - 3) 議事進行および役割分担の確認
2. 第 37 回 日本看護科学学会学術集会(JANS37)の準備状況
3. 各委員会からの審議事項
4. 入会希望者の承認

平成 28 年度第 3 回理事会

日 時：平成 28 年 9 月 4 日（日） 13：00～17：15

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名、監事 1 名、第 36 回学術集会会長、第 37 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 36 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 37 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 第 39 回日本看護科学学会学術集会（JANS39）会長の候補者選出
4. 各委員会からの報告および審議事項
5. 12 月社員総会の議事次第（案）と欠席者の議決権行使方法についての確認
6. 第 36 回学会総会の議事次第（案）の確認
7. 会計報告（各委員会予算執行状況含む）
8. 日本看護科学学会内部統制案について
9. 契約職員就業規則案の承認
10. 入会希望者の承認
11. その他（故・兼松百合子先生の叙勲についての報告 叙位 従四位 叙勲 瑞宝中綬章）

平成 28 年度第 4 回理事会

日 時：平成 28 年 10 月 23 日（日） 13：00～16：40

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 13 名、監事 1 名、第 36 回学術集会会長、第 37 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 36 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 37 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 各委員会からの報告および審議事項
4. 会計報告
5. 平成 29 年度各委員会予算案
6. 12 月社員総会の議案の承認および進行分担表の確認
 - 1) 平成 29 年度事業計画案の承認
 - 2) 平成 29 年度予算案の承認
 - 3) 第 39 回日本看護科学学会学術集会（JANS39）会長候補者の承認
7. 第 36 回学会総会の資料（案）および進行分担表の確認
8. 名誉会員推薦についての申し合わせ変更案の承認
9. 平成 29 年選挙における理事候補者の選出数について
10. 契約職員の採用の承認
11. アルバイト就業規則案、嘱託職員就業規則案の承認
12. 入会希望者の承認

平成 28 年度 11 月書面理事会

日 時：平成 28(2016)年 11 月 1 日(火)

（理事会の決議があったものとみなされた日：平成 28 年 11 月 22 日）

出席者：理事 15 名

〈議案〉

日本看護系学会協議会役員選挙における被選挙人推薦について

平成 28 年度第 5 回理事会

日 時：平成 28 年 12 月 9 日（金） 14：00～16：00

場 所：日本教育会館 704 号室（東京都千代田区一ツ橋 2-6-2）

出席者：理事 14 名、監事 2 名、第 37 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 37 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 平成 28 年 12 月社員総会議案の承認および進行分担表の確認

- 1) 平成 29 年度予算案の承認
- 2) 12 月社員総会進行分担表の確認
3. 第 36 回学会総会資料および進行分担表の確認
4. 各委員会からの審議事項
5. 来年度の理事会日程について
6. 入会希望者の承認

平成 28 年度第 6 回理事会

日 時：平成 29 年 2 月 12 日（日） 13：00～16：40

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 13 名、監事 2 名、第 36 回学術集会会長、第 37 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 36 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 37 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 平成 28 年度決算見込みと会費配分率の決定について
4. 各委員会からの報告および審議事項
5. 各委員会の子算執行状況について
7. 平成 29 年 6 月定例社員総会の議事次第（案）と欠席者の議決権の行使方法について
8. 退職金規程の変更について
9. 竹市真樹氏の退職金について
10. 入会希望者の承認
11. その他

公益社団法人日本看護科学学会 社員総会報告

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

平成 28 年 6 月定例社員総会

日 時 平成 28 年 6 月 19 日 (日) 11:00～12:45

場 所 AP 東京八重洲通り

東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP八重洲ビル11階 Tel.03-6228-8109

総社員数: 264 名

出席社員数: 232 名 (うち委任状 117 名)

- I. 開会
- II. 理事長挨拶
- III. 第36回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶
- IV. 議長指名および議事録署名人の承認
- V. 報告事項
 1. 理事会および社員総会活動報告
 2. 総務報告
 3. 平成 27 年度事業報告
 - (1) 第 35 回日本看護科学学会学術集会開催
 - (2) 第 36 回・第 37 回日本看護科学学会学術集会準備
 - (3) 和文誌の発行 …電子ジャーナル (J-Stage)
 - (4) 英文誌の発行 …電子ジャーナル (Wiley)
 - (5) 看護学学術振興対策
 - ① 看護学学術用語の検討
 - ② 国際活動の推進 (世界看護科学学会を含む)
 - ③ 看護倫理の検討と啓発
・学術活動の利益相反 (COI) に関する指針および細則の施行
 - ④ 研究成果の蓄積と活用
 - (6) 学術研究論文の表彰
 - (7) 学会組織の強化・発展
 - ① 若手研究推進委員会の活動と推進
 - ② JANS セミナー
 - ③ JJNS セミナー
 - (8) 社会貢献活動
 - (9) 広報活動
 - (10) 災害看護支援事業 (日本看護系学会協議会との共同事業による)
 - (11) 他機関との連携活動
 - ① 日本看護系学会協議会
 - ② 看護系学会等社会保険連合
 - ③ 日本学術会議
 - ④ その他の機関
- VI. 審議事項
 - 第1号議案 平成27年度決算の承認および会計監査の報告
 - 第2号議案 災害看護支援事業資金取崩の承認
 - 第3号議案 名誉会員の承認
- VII. その他
- VIII. 閉会

平成 28 年 12 月社員総会

日 時 平成 28 年 12 月 9 日（金） 17：30～19：00

場 所 日本教育会館 7 階中会議室

東京都千代田区一ツ橋2-6-2 Tel.03-3230-2831

総社員数：264 名

出席社員数：212 名（うち委任状 133 名）

I. 開会

II. 理事長挨拶

III. 第36回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

VI. 審議事項

第1号議案 平成29年度事業計画案の承認

第2号議案 平成29年度予算案の承認

第3号議案 第39回日本看護科学学会学術集会会長の承認

VII. 閉 会

総務報告

1. 会員推移（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

1) 正会員数増減

①平成28年4月1日正会員数

7,902名＝平成28年3月31日正会員数 8,384名 － 平成28年度資格喪失者 482名
 （自主退会219名、会費未納263名）

②平成28年度の入会者

897名＝新規入会811名 ＋ 再入会86名

③平成28年度の死亡喪失者 6名

④会員区分の変更 2名（正会員から名誉会員）

2) 賛助会員増減

なし

3) 名誉会員増減

平成28年度承認
 増 2名 近藤 潤子 矢野 正子
 減 1名 兼松 百合子

4) 平成29年3月31日現在 会員数

正会員 8,791
 名誉会員 16
 賛助会員 5
 会員総数 8,812

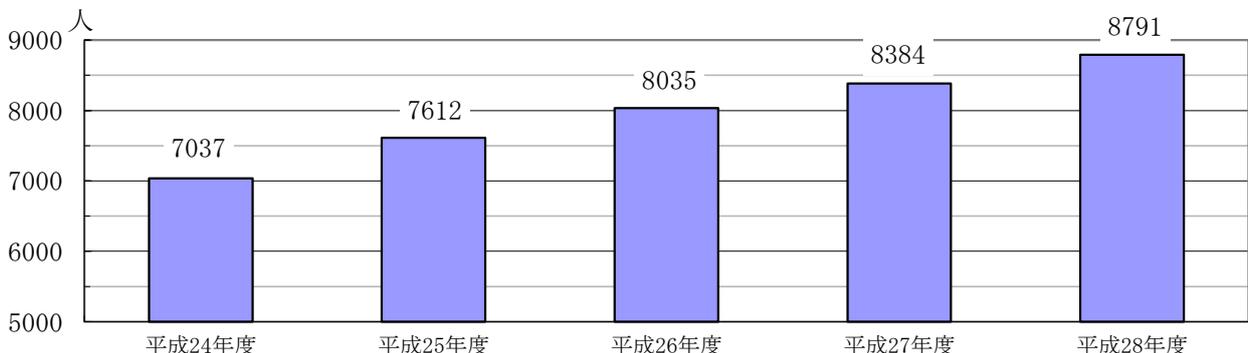
2. 地区別正会員数（平成29年4月1日 会員数 8,791名）

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数			
北海道	北海道	373	北陸	富山	48	九州・沖縄	福岡	442			
				石川			125		佐賀	51	
東北	青森	134	東海	福井	66		長崎		61		
	岩手			64			熊本		87		
	宮城			153			愛知		466	大分	62
	秋田			69			岐阜		187	宮崎	62
	山形			66			三重		158	鹿児島	49
	福島			46			大阪		519	沖縄	94
関東A	茨城	129	近畿A	大阪	512		宛先不明者		38		
	栃木		109	近畿B		滋賀	109				
	群馬		157	京都		239	合計	8,791			
	埼玉		296	奈良		83					
関東B	千葉	391	中国・四国	和歌山	26						
	神奈川			545		鳥取	37				
東京A	※1	629		島根		58					
				岡山		179					
東京B	※2	701		広島		278					
				山口		55					
甲信越	新潟	106		徳島		67					
	長野			106		香川	72				
	山梨			81		愛媛	69				
				高知		159					

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

3. 正会員数の推移（年度別）



選挙管理委員会報告

選挙管理委員 高木廣文（委員長）、野口眞弓（副委員長）、岡美智代、桑名佳代子、二宮啓子

定款第 37 条にもとづく役員（理事）候補者の選出を行ったので、以下、報告する。

役員候補者選出規程に則り、下記のとおり各選挙を行った。なお、本選挙は、Web を利用した電子投票（以下、Web 投票）方式を用いている。

理事候補者選挙について

- ・ 公示（ホームページ掲載、郵送、代議員一斉メール配信）：平成 29 年 1 月 10 日
- ・ 投票要領等の郵送：平成 29 年 1 月 23 日
- ・ Web 投票期間：平成 29 年 2 月 1 日～26 日

選挙人数 264 名

被選挙人数 258 名

理事候補者選挙投票者総数 198 名

理事候補者選挙投票率 75.0%

※前回（平成 27 年 3 月）Web 投票式理事候補者選挙の投票率は 71.2%

開票立会人 筒井真優美 先生（日本赤十字看護大学）

Web 投票練習期間は設けなかった。

選挙に関して、パスワードがわからない等の問い合わせが 4 件あった。

- ・ 理事候補者名簿の理事会への提出：平成 29 年 5 月 12 日（平成 29 年度第 1 回理事会）

公益社団法人日本看護科学学会 平成29年度委員会名簿

※所属機関名は4月18日現在の会員登録データに基づいています。

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
総務	委員長	麻原 きよみ	聖路加国際大学
	理事	西村 ユミ	首都大学東京
和文誌編集	委員長	深堀 浩樹	東京医科歯科大学
		山本 則子	東京大学大学院
		沢 豊予	東北大学大学院
		浅野 みどり	名古屋大学大学院
		荒木 暁子	千葉県千葉リハビリテーションセンター
		五十嵐 歩	東京大学大学院
		和泉 比佐子	神戸大学大学院
		牛久保 美津子	群馬大学大学院
		内田 陽子	群馬大学大学院
		遠藤 淑美	大阪大学大学院
		久保 暢子	大聖路加国際大学
		大落 亮太	横浜市立大学
		小野 智美	聖路加国際大学
		片岡 弥恵子	聖路加国際大学
		河野 あゆみ	大阪市立大学大学院
		佐伯 圭一郎	大分県立看護科学大学
		佐伯 由香子	愛媛大学
		酒井 明子	福岡女子医科大学
		佐藤 清安	大阪大学大学院
		英文誌編集	委員長
西垣 昌和	京都大学大学院		
池田 理恵	岡山県立大学		
石川 陽子	首都大学東京		
石原 逸子	神戸市看護大学		
和泉 成子	Oregon Health & Science University		
梅田 麻希	聖路加国際大学		
江藤 宏美	長崎大学		
岡田 彩子	兵庫県立大学		
尾崎 章子	東北大学大学院		
加藤 憲司	東神市看護大学		
北岡 和代	金沢大学		
佐々木 美奈子	東京医療保健大学		
鈴木 美穂	がん研有明病院		
田村 恵子	京都大学大学院		
永中 田村	慶應義塾大学		
野口 眞子	日本赤十字豊田看護大学		
深井 喜代子	岡山大学大学院		
法橋 尚宏	神戸大学大学院		
堀内 成子	聖路加国際大学		
前田 ひとみ	熊本大学		
丸山 光恵子	甲南女子大学		
丸山 昭子	松陰医科大学		
森川 恵や	浜松大学		
山崎 あけみ	大阪大学		
研究・学術情報	委員長	酒井 郁子	千葉大学大学院
		西垣 昌和	京都大学大学院
		荒木 暁子	千葉県千葉リハビリテーションセンター
		石橋 みゆき	千葉大学大学院
		大久保 暢子	聖路加国際大学
		大田 えりか	聖路加国際大学
		小斉 智訓子	慶應義塾大学
		小田 高悦子	日本看護協会
		田高 悦子	横浜市立大学
		深堀 浩樹	東京医科歯科大学
会計	会計		

公益社団法人 日本看護科学学会 平成 28 年度事業報告

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

(1) 第 36 回日本看護科学学会学術集会開催

- ・ 第 36 回日本看護科学学会学術集会 (JANS36) を岡谷恵子学術集会会長のもと、平成 28 年 12 月 10 日 (土) から 11 日 (日) の 2 日間、東京国際フォーラムにて開催した。メインテーマは「国民の幸せをもたらす制度設計と看護研究」、参加者総数 4,306 名、演題数 1,002 題、交流集会 52 題、ランチョンセミナー 4 件、市民フォーラム「身終い (みじまい) ～人生の終え方～」参加者数約 236 名。

(2) 第 37 回・第 38 回日本看護科学学会学術集会準備

- ・ 第 37 回日本看護科学学会学術集会 (JANS37) を吉沢豊予子学術集会会長のもと、平成 29 年 12 月 16 日 (土) から 17 日 (日) の 2 日間、仙台国際センター会議棟・展示棟にて開催予定である。メインテーマは「看護におけるダイバーシティデザイン ～社会が求めるケアイノベーションをめざして～」である。
- ・ 第 38 回日本看護科学学会学術集会 (JANS38) を佐伯由香学術集会会長のもと、平成 30 年 12 月 15 日 (土) から 16 日 (日) の 2 日間、ひめぎんホール (愛媛県) にて開催予定である。

(3) 和文誌の発行 …電子ジャーナル (J-Stage)

- ・ 和文誌編集委員会を 2 回 (平成 28 年 6 月 18 日、12 月 10 日) 開催した。
- ・ 新査読ガイドラインに則り、査読システムの効果的運用と質向上を図った。
- ・ 学会誌への投稿を促進し、原著論文・総説の増加を図った。
- ・ 電子投稿での作業を行い、平成 28 年 (平成 28 年 1 月 1 日～12 月 31 日) の投稿数は、計 105 編であった (前年度は 76 編)。
- ・ 第 36 巻 (平成 28 年 1 月～12 月) 随時掲載の論文数は、論壇 1 編、原著論文 21 編、研究報告 0 編、総説 4 編、短報 1 編、資料 6 編、その他 0 編の計 33 編であり、論文公開時には会員に向けた一斉メールを配信した (前年度 論壇 0 編、原著論文 12 編、研究報告 6 編、総説 0 編、短報 0 編、資料 12 編、その他 0 編の計 30 編)。
- ・ 査読過程の変更とそれに伴う投稿規程、査読ガイドラインの変更をした。
- ・ 和文誌編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラムとして、和文誌セミナー「論文の作成・投稿のプロセスと査読のあり方」を平成 29 年 3 月 26 日 (日) 13:30～16:30 アクア博多会議室 A (福岡県) で開催した。参加者数は 90 名であった。

(4) 英文誌の発行 …電子ジャーナル (Wiley)

- ・ Holzemer 編集長来日のもと英文誌編集委員会を2回（平成28年11月11日、平成29年3月27日）、Web会議システムを用いた日本語での編集委員会を1回（平成28年8月29日）開催した。Webによる委員会小会議を1回（平成28年6月21日）開催した。
- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.13 No.2~4 および Vol.14 No.1 をオンラインで発刊した。
- ・ 平成28年（平成28年1月1日~12月31日）の論文投稿数は339編であった（前年は327編）。
- ・ 平成27年に引き続き、ジャーナル・プロモーションのために、平成28年に優秀賞と奨励賞を受賞し、JJNSに掲載された論文4編をフリーアクセスとした。
- ・ 平成28年度の若手研究者支援事業については実施したが投稿がなく、今年度は中止となった。
- ・ 機関リポジトリに全文掲載をした場合、JJNSに出版できないことを Author Guidelines に明記した。
- ・ JJNS セミナーおよび JANS36 で、JJNS 投稿コンサルテーションを実施した。
- ・ 平成27年度の impact factor は、0.458 であった（平成28年6月発表による）。

(5) 看護学学術振興対策

① 看護学学術用語の検討

- ・ 看護学学術用語検討委員会を5回（平成28年5月21日、6月26日、8月19日、平成29年1月21日、3月26日）開催した。
- ・ 本委員会にて検討された学術用語の利用実態を知るために、Web調査を実施した。
- ・ 看護学における学術用語及び概念開発に関する議論をホームページにて発信した。
- ・ 現行の看護学用語のチェック及び新たな看護学用語の掘り起こしと検討を行なった。

② 国際活動の推進（世界看護科学学会を含む）

国際活動推進委員会

- ・ 国際活動推進委員会を2回（平成28年5月21日、10月7日）開催した。
- ・ 世界看護科学学会（WANS）事務局業務を行う（HP維持管理含む）。
- ・ 看護学のグローバルスタンダードの検討に関する活動として、第36回日本看護科学学会学術集会において、「看護系大学院教育のグローバル化への対応状況に関する調査」の結果を示説として報告した（12月10日）。また、交流集会においては「How Can Japanese Nursing Universities Be Globalized?」をテーマに、看護学のグローバルスタンダードや国際看護学教育のあり方について問題を提起し、討論を行った（12月11日）。
- ・ JANS ホームページ内の異文化看護データベースの見直し作業については、国際交流看護協会からの Nursing in the World の譲り受けの検討や科学研究費補助金「研究成果公開促進事業（データベース）」への応募を行い、データベース構築の方向性を模索した。

世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）

- ・ 第5回 WANS 学術集会について WANS 事務局として開催を支援する。
- ・ 第5回 WANS 学術集会は、Thailand Nursing and Midwifery Council (TNMC) と共同開催で、“TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017: Culture, Co-creation, and Collaboration for Global Health” と題して、2017年10月20日～22日に Thailand (Bangkok) で、Dr. Tassana Boontong を会長として開催される。
- ・ WANS の6つの会員団体から Speaker が出される予定である。
- ・ WANS のホームページを更新し、TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017 の広報活動を開始した。

③ 看護倫理の検討と啓発

学術活動の利益相反（COI）に関する指針および細則の施行

利益相反委員会

- ・ 役員、委員会委員、和文誌・英文誌投稿者、学術集会における発表者を対象に COI を実施し、評価を行う際、今後外国人が対象となることも考慮し、指針、および細則の英語版を作成した。
- ・ 第36回学術集会会長、各講演者および学術集会演題登録時の利益相反申告を実施した。
- ・ セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。

看護倫理検討委員会

- ・ 看護倫理検討委員会を3回（平成28年7月31日、10月9日、12月11日）開催した。
- ・ 研究者が研究活動における不正防止及び倫理の遵守に関して、どのように実行しているのかについて Web 調査を実施し、調査結果は JANS ホームページに登載すると共に、JANS36 交流集会以て報告した。
- ・ 研究倫理に関する啓発活動として、既存の e-learning を JANS ホームページにて紹介（ICR 臨床研究入門、eLCoRE）。
- ・ 個人情報保護法等の改正に伴う「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の改正に関するパブリックコメントについて検討した。

研究倫理審査委員会

- ・ 2件の申請があり、簡易審査を行った。
- ・ 本会委員会活動における研究（調査）を対象とした研究倫理審査に関する申し合わせを策定した。

④ 研究成果の蓄積と活用

- ・ 研究・学術情報委員会を3回（平成28年6月12日、10月16日、12月10日）開催した。
- ・ 調査研究事業「看護・保健分野の政策提言のための研究課題の優先順位の設定および研究推進のStrategic Planの設定」を実施した。JANS 会員および会員外有識者10名を対象にしたフォーカスグループインタビューと、JANS 社員および委員会委員全員を対象にデルファイ法によるWeb 調査により、看護学が今後優先して取り組むべき研究課題および整備すべき研究体制を挙げた。調査結果はJANS ウェブサイトに掲載している。
- ・ JANS が所有している研究リソース(過去の報告書、セミナー資料、動画等)のアーカイブ化をすすめた。

(6) 学術研究論文の表彰

- ・ 表彰論文選考委員会を3回（平成28年7月メール審議、平成28年8月1日対面委員会、10月メール審議）開催した。
- ・ あらかじめメール審議にて表彰論文選考方針、選考基準、選考手順を平成26年度の方針に準ずることを確認し、8月会議開催までに候補論文すべてについて委員の審査を終えることを確認した。
- ・ 平成28年8月1日の対面委員会にて30本の候補論文の中から、優秀賞および奨励賞候補論文8件（和文3論文、英文5論文）を審査リストとして作成した。これらについて、平成28年8月3日に全代議員264名と役員にメールにて採点を依頼した。
- ・ 10月7日までに返信された145件について評価点の集計を行った（回収率55%）。集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞2編、奨励賞2編を決定し、理事会（10月23日）に報告し、承認を得た。
- ・ 表彰論文選考手順の一部改正（来年度より実施）

【優秀賞】

(ORIGINAL ARTICLES) Kyoko Asazawa

Effects of a partnership support program for couples undergoing fertility treatment.

Japan Journal of Nursing Science 2015;12(4),354-366

(ORIGINAL ARTICLES) Tomoko Kamei, Fumiko Kajii, Yuko Yamamoto, Yukako Irie, Rumi Kozakai, Tomoko Sugimoto, Ayako Chigira and Naoakira Niino

Effectiveness of a home hazard modification program for reducing falls in urban community-dwelling older adults: A randomized controlled trial.

Japan Journal of Nursing Science 2015;12(3),184-197

【奨励賞】

(ORIGINAL ARTICLES) Michiko (Nakakita) Kenyon

Randomized controlled trial on the relaxation effects of back massages for puerperants on the first post-partum day.

Japan Journal of Nursing Science 2015;12(2),87-98

(ORIGINAL ARTICLES) Chie Teramoto, Atsushi Matsunaga and Satoko Nagata

Cross-sectional study of social support and psychological distress among displaced earthquake survivors in Japan.

Japan Journal of Nursing Science 2015;12(4),320-329

(7) 学会組織の強化・発展

① 若手研究推進委員会の活動の推進

- ・ 若手研究推進委員会を、対面式で3回（平成28年6月26日、9月22日、平成29年2月25日）、Web会議を1回（平成28年4月19日）開催した。
- ・ JANS 若手の会 HP において、委員会活動の報告をした。
- ・ JANS36 交流集会では、制度・政策策定と研究との関連を意識づける趣旨のもと、「若手研究者の小さな一歩が社会の歩みとなるために」を企画開催した。モーニングセッション「偉大なる先輩看護者との交流会」のファシリテーターを務めた。委員会活動を紹介し、今後の看護界への夢を記載する活動ブースを設けた。
- ・ 平成27年度に実施した若手研究者の研修ニーズ調査に基づき、JANS36 学術集会において「若手ステップアップ研修」を企画開催した。Web調査の結果を「若手看護学研究者を対象とした、研究および教育活動の支援を目的とした研修ニーズ調査」として論文化した。
- ・ 全国の若手研究者のつながりを作るために、学術集会開催時にオフ会を開催した。
- ・ JANS 若手の会メーリングリストを活用し、情報の発信を行った。
- ・ 各地域での若手の活動拠点を作るエリア・コーディネーターをリクルートし、今期は15名の方にコーディネーターを依頼・承諾頂いた。JANS36 学術集会においては、若手研究推進委員会の活動ブースのサポートや、オフ会の企画運営を担って頂いた。
- ・ JANS37 での交流集会企画・パネルディスカッションの企画も継続検討した。

② JANS セミナー

- ・ 第8回 JANS セミナー開催（平成28年6月19日（日）14時00分～17時30分）
テーマ：介入研究ことはじめ - デザインと実施 -
参加人数：会場受講 225名（会員 184名、非会員 41名）、Web 受講 456名（会員のみ）

- ・ 第9回 JANS セミナー開催（平成 29 年 3 月 19 日（日）10 時 30 分～16 時 00 分）
テーマ：看護研究にいかす統計学の基本
参加人数：会場受講 192 名（会員 163 名、非会員 29 名）、Web 受講 670 名（会員のみ）

③ JNS セミナー

- ・ 平成 28 年 11 月 12 日に啓発活動としてのセミナー “Improving Your Success at Publishing in English 2016 : The Challenges of Being a Peer Reviewer for Journal Articles”を東京で開催した。参加者 42 名で、アンケート結果は好評であった。

(8) 社会貢献活動

- ・ 社会貢献委員会を 2 回（平成 28 年 12 月 11 日、平成 29 年 3 月 16 日）開催した。
- ・ JANS36 において、平成 28 年 12 月 11 日（日）市民フォーラム「身終い～人生の終え方」、ナーシング・サイエンス・カフェ「看護職を志向するあなたへー看護の多様な働き方を紹介しますー」を開催した。それぞれ、236 名、生徒 27 名保護者 10 名の参加者があった。アンケートの結果、両プログラムについては参加者が大変満足され、高評価を得たプログラムであった。特に市民フォーラムは立ち見が出るほどであった。
- ・ 昨年の委員会でナーシング・サイエンス・カフェのオブザーバー参加について検討したが、今回はそれを許可したこともあり、関心のある学会員が多数、講演に参加できた。
- ・ 平成 29 年 3 月に委員会を開催し、JANS36 の市民フォーラムとナーシング・サイエンス・カフェの総括を行った。続いて、JANS37 の市民フォーラムとナーシング・サイエンス・カフェの企画案について審議した。市民フォーラムは「認知症と共に生きる Living well with dementia」～」（案）、で、講師の人選を始めることとなった。また、ナーシング・サイエンス・カフェは、「コードブルー 救急看護 24 時(仮)～」（案）で救急医療に携わるフライトナース、フライトドクターを講師に迎え、実践の紹介をしてはどうかの案があり、次期社会貢献委員会に引き継ぐこととした。
- ・ 社会貢献委員会が行う市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェは学術集会に合わせて必ずやらなければならないのか。独自に行うことも可能か。特にナーシング・サイエンス・カフェは、学会開催時期が例年生徒の期末試験と重なっていることもあり、検討が必要である。また、市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェを、SNS を通して動画配信し、多くの市民に公開するという考えもあり、今後検討されることとして引き継ぎ事項とした。

(9) 広報活動

- ・ 広報委員会を 3 回（平成 28 年 8 月 29 日、11 月 23 日、平成 29 年 1 月 28 日）開催した。
- ・ JANS 研究論文を実践へトランスレーションする新企画を立案し着手した。
広く市民に向けて看護の知を普及させることを目的に、JANS で過去 5 年間に表彰

を受けた研究論文を、著者自らがホームページ上で解説する企画を立案した。

ホームページ上のサイト名は「看護研究の玉手箱」とし、次年度早々に掲載できるように準備を整えた。

- ・ 学術集会企画委員会との連携

JANS36に関連した広報活動を行った（プレスリリースの作成、厚生労働省、文部科学省への投げ込み、開催地の報道機関への広報）

- ・ 社会貢献委員会との連携

- ① 市民フォーラムの広報媒体の作成、配布。

- ② ナーシング・サイエンス・カフェの広報媒体の作成、配布。

- ③ 市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェ共に JANS ホームページに情報を掲載した。

- ・ 学会 HP の充実

- ① 随時内容の更新、整理を行った。「バナー」の整理を行い、「メニュー」と「バナー」を変更した。

- ② 学術集会の記録を行い、学会 HP にアップした。

- ・ 外部からリンクを貼る依頼があった際の、受諾の是非に関する基準を作成した。

(10) 災害看護支援事業（日本看護系学会協議会（JANA）との共同事業による）

- ・ 日本看護系学会協議会（JANA）と連携した助成事業の終了により「災害看護支援事業専門委員会」は、5年間の活動をもって終了した。今後、災害等の緊急事態が発生した場合は、臨時委員会を組織するなどして対応していく。

- ・ 共同事業のために設けた募金口座の残金 78,472 円は、JANS 及び JANA 理事会、社員総会の承認を得て、公益社団法人熊本県看護協会へ全額寄付した。

(11) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会（JANA）

- ・ 平成 28 年度総会出席（平成 28 年 6 月 29 日）

場所：日本赤十字看護大学広尾キャンパス

議案：平成 27 年度会計報告、災害看護支援について、平成 28 年度事業活動案・予算案について 他

- ・ JANA 平成 29 年度役員選挙に関わる選挙管理委員の推薦

- ・ 医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、4名の会員を個別調査部会員として推薦した。

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）

- ・ 理事会・社員総会に役員として出席した。社員総会にはオブザーバー参加もした。
- ・ 平成 30 年診療報酬・介護報酬の同時改訂に向けて、診療報酬あり方検討委員会・介護報酬あり方検討委員会合同会議、看護技術検討委員会に参加した。
- ・ 看保連平成 29 年度研究助成への応募 4 件を審査し、1 件を承認した。

③ 日本学術会議

- ・ 日本学術会議から提供のあった日本学術会議ニュース・メールを役員に提供した。

(12) 平成29年度収支予算の一部変更

公益社団法人 日本看護科学学会

平成29年度 補正収支予算書
平成 29年 4月 1日 から平成30年 3月 31日 まで

科 目	備考	平成29年度 補正予算額 (H. 29. 4. 1~ H. 30. 3. 31)	平成29年度 当初予算額 (H. 29. 4. 1~ H. 30. 3. 31)	差異
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		1,000	1,000	0
特定資産受取利息収入		1,000	1,000	0
②会費収入		91,800,000	91,800,000	0
正会員会費収入	※1	91,500,000	91,500,000	0
賛助会員会費収入	※2	300,000	300,000	0
③学会誌収入		590,000	590,000	0
④寄附金・助成金収入（学術集会含まず）	※3	0	1,500,000	△ 1,500,000
⑤雑収入		5,496,000	5,496,000	0
受取利息収入		1,000	1,000	0
著作権料収入		250,000	250,000	0
セミナー収入		5,245,000	5,245,000	0
JANSセミナー	※4	3,880,000	3,880,000	0
JJNSセミナー		1,365,000	1,365,000	0
その他雑収入		0	0	0
⑥学術集会収入		50,885,000	50,885,000	0
学術集会参加費収入		41,050,000	41,050,000	0
事前登録会員（10,000円）		17,000,000	17,000,000	0
事前登録非会員（12,000円税込）		6,000,000	6,000,000	0
事前登録学部生（3,000円税込）	※5	30,000	30,000	0
当日登録会員（12,000円）		14,400,000	14,400,000	0
当日登録非会員（14,000円税込）		3,500,000	3,500,000	0
当日登録学部生（3,000円税込）		120,000	120,000	0
寄附金・助成金収入		0	0	0
広告販売収入		9,385,000	9,385,000	0
企業展示出展料		5,249,000	5,249,000	0
広告掲載料		2,840,000	2,840,000	0
スポンサードセミナー		1,296,000	1,296,000	0
懇親会収入		450,000	450,000	0
雑収入		0	0	0
事業活動収入合計（I a）		148,772,000	150,272,000	△ 1,500,000
2. 事業活動支出				
①事業費支出		83,613,000	83,643,000	△ 30,000
学会誌発行費支出		21,270,000	19,800,000	1,470,000
和文誌編集費支出	※6	3,970,000	3,970,000	0
英文誌編集費支出	※7	17,300,000	15,830,000	1,470,000
編集活動費支出		1,885,000	1,885,000	0
和文誌編集委員会費支出		700,000	700,000	0
英文誌編集委員会費支出		1,185,000	1,185,000	0
看護学術振興費支出		5,802,000	5,802,000	0
研究・学術情報委員会費支出		1,420,000	1,420,000	0
国際活動推進委員会費支出	※8	2,195,000	2,195,000	0
看護学術用語検討委員会費支出		847,000	847,000	0
看護倫理検討委員会費支出		450,000	450,000	0
表彰論文選考委員会費支出		180,000	180,000	0
若手研究推進委員会支出		710,000	710,000	0
災害看護支援事業専門委員会支出		0	0	0
研究学術活動支援費支出		5,550,000	7,050,000	△ 1,500,000
受賞論文表彰費支出		185,000	185,000	0
研究倫理審査委員会費		120,000	120,000	0
利益相反委員会費支出	※9	—	—	0
データベース構築事業支出	※10	0	1,500,000	△ 1,500,000
JANSセミナー開催費	※11	3,880,000	3,880,000	0
JJNSセミナー開催費		1,365,000	1,365,000	0
社会的活動費支出		1,035,000	1,035,000	0
社会貢献委員会支出（市民フォーラム開催費含む）		535,000	535,000	0
広報委員会費支出（公益目的事業分）	※12	500,000	500,000	0
総務費支出		—	—	0
総務委員会費支出	※13	—	—	0

科 目	備考	平成29年度 補正予算額 (H. 29. 4. 1~ H. 30. 3. 31)	平成29年度 当初予算額 (H. 29. 4. 1~ H. 30. 3. 31)	差異
学術集会費支出		48,071,000	48,071,000	0
当年度開催学術集会		45,292,000	45,292,000	0
会場費支出		25,108,000	25,108,000	0
会議費支出		2,026,000	2,026,000	0
旅費交通費支出		1,710,000	1,710,000	0
消耗品費支出		747,000	747,000	0
通信運搬費支出(プログラム送料含む)	※14	1,313,000	1,313,000	0
印刷製本費支出(プログラム印刷費含む)		5,628,000	5,628,000	0
委託費支出		6,650,000	6,650,000	0
人件費支出		21,000	21,000	0
謝金支出		984,000	984,000	0
賃借料支出		0	0	0
渉外費支出		0	0	0
雑支出		305,000	305,000	0
懇親会運営費支出		800,000	800,000	0
次年度開催学術集会(準備期間)		2,779,000	2,779,000	0
会場費支出		0	0	0
会議費支出		40,000	40,000	0
旅費交通費支出		40,000	40,000	0
消耗品費支出		409,000	409,000	0
通信運搬費支出(学術集会のご案内送料含む)		947,000	947,000	0
印刷製本費支出(学術集会のご案内印刷含む)		608,000	608,000	0
委託費支出		519,000	519,000	0
人件費支出		216,000	216,000	0
謝金支出		0	0	0
賃借料支出		0	0	0
渉外費支出		0	0	0
雑支出		0	0	0
②管理費支出		54,896,000	54,896,000	0
給料手当支出	※15	22,200,000	22,200,000	0
福利厚生費支出		3,800,000	3,800,000	0
通勤費支出		1,700,000	1,700,000	0
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費	※16	400,000	400,000	0
社員総会費		4,000,000	4,000,000	0
理事会費		3,100,000	3,100,000	0
委託費支出	※17	5,880,000	5,880,000	0
渉外費支出		30,000	30,000	0
旅費交通費支出	※18	380,000	380,000	0
通信運搬費支出	※19	2,368,000	2,368,000	0
消耗品費支出		2,120,000	2,120,000	0
印刷製本費支出		82,000	82,000	0
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		735,000	735,000	0
賃借料支出	※20	3,840,000	3,840,000	0
保険料支出		85,000	85,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出	※21	1,072,000	1,072,000	0
負担金支出	※22	150,000	150,000	0
修繕費支出	※23	50,000	50,000	0
資格喪失者会費支出	※24	—	—	0
雑支出		1,640,000	1,640,000	0
総務費支出		864,000	864,000	0
総務委員会費支出	(※13)	35,000	35,000	0
利益相反委員会費支出	(※9)	109,000	109,000	0
広報委員会費支出(法人会計分)	(※12)	370,000	370,000	0
選挙費用支出	※25	350,000	350,000	0
事業活動支出合計(I b)		138,509,000	138,539,000	△ 30,000
事業活動収支差額(I a)-(I b)		10,263,000	11,733,000	△ 1,470,000
II 什器備品購入支出		108,000	108,000	0
III 予備費支出		3,000,000	3,000,000	0
当期収支差額		7,155,000	8,625,000	△ 1,470,000
前期繰越収支差額		104,844,463	104,844,463	0
次期繰越収支差額		111,999,463	113,469,463	△ 1,470,000

- ※1 平成29年4月1日時点での会員数を8,700名、新入会者・再入会者850名、資格喪失者400名と見積もり、合計9,150名分を会費収入として計上。
- ※2 (株)日本看護協会出版会2口、(株)医学書院・(株)南江堂・(株)へるす出版・(有)ヌーヴェルヒロカワ各1口。会費1口5万円。
- ※3 《取消》科研費の不採択により取消し。
グローバル看護データベースの構築費用として科研費(150万円)を平成28年11月に応募している。(国際活動推進委員会)
- ※4 会員限定で募集をするWeb受講者が増加傾向にあるため収入の増加を見込んでいる。
- ※5 JANS37学術集会の参加費は据え置く。
- ※6 日本看護科学会誌(電子ジャーナル)製作費、編集関連経費及びオンライン投稿・査読システム(ScholarOne Manuscripts)利用料。平成29年度より投稿論文イニシャルチェックを依頼するため増額している。
- ※7 《修正》英文誌編集事務費の見直しに伴う再契約により増額している。
JUNS(Online Journal)の編集費、編集事務費、英文誌編集長謝金(旅費交通費を含め年間260万円)。
- ※8 世界看護科学学会(WANS)事務局業務を担っている。平成29年10月に開催される第5回WANS学術集会(バンコク・タイ国)の開催準備、WANS理事会に出席するための旅費および、グローバル看護データベース構築に関する科研費対象外経費等を計上している。
- ※9 【これまで事業費に計上していた、利益相反委員会活動費を公益認定上の区分に準じて管理費に計上している】
- ※10 《取消》科研費の不採択により取消し。
科研費(※3)を充当するため独立事業として新設した。グローバル看護データベース構築費用に関する対象費用を計上している。
- ※11 年に2回(6月・3月頃)開催する。民間施設使用および、参加者増加による資料印刷部数の増加により増額している。
- ※12 【これまで事業費に計上していた、広報委員会の活動費のうち、公益目的事業(市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェなど)に携わる費用を事業費に計上し、委員会開催費(会議費・旅費交通費)を管理費に計上している】
- ※13 【これまで事業費に計上していた、総務委員会活動費を公益認定上の区分に準じて管理費に計上している】
- ※14 JANS37学術集会はプログラム集を発行する予定のため、通信運搬費と印刷製本費が増加している。
- ※15 正職員4名、契約職員1名(育児休暇中の正職員の交代要員)、パート2名(週1~3日勤務)の給与・賞与。
- ※16 理事交代に伴う臨時理事会を1回(7月頃)開催するため理事会費が増額加している。定例理事会6回(5月、6月、9月、10月、12月、2月)、社員総会2回(6月・12月/民間会議場使用)、学会総会1回(12月/学術集会の会場を使用)。
- ※17 【法人として必要】
会計事務所(136万円)〈会計顧問料(77万)、内閣府提出書類作成料(11万)、司法書士(5万円)、社会保険労務士(43万円)〉、公認会計士監査報酬(36万円)、顧問弁護士(39万円)
【学会事業に直接必要】
会員管理システム利用料(199万円)〈基本利用料(96万)、会費コンビニ決済機能(22万)、学術集会参加登録・行事管理機能(67万)、アンケート機能(14万)〉、JANSホームページ年間維持更新管理料(67万円)、ホームページ英訳費用(32万円)、英文誌編集長契約事務手続き(5万円)、Web会議システムV-CUBE(44万円)、封入委託費(9万円)
【事務所運営費】
事務所警備委託費(21万円)
- ※18 事務所職員の出張に伴う交通費。第37回学術集会は仙台開催のため、前年度(東京開催)より増額している。通勤費は「通勤手当」に別途計上している。
- ※19 新任の理事、委員、査読委員へ委嘱状、理事長就任の挨拶状を送付するため増額している。
- ※20 事務所賃借料、コピー機リース料、紙折り機リース料。なお、複合機の機種変更に伴い「複合機リース料」を本項目に計上していないため賃借料支出が減少している。(公益法人会計基準により賃借料ではなく債務計上している)
- ※21 収益事業(学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入)に関わる法人税および法人事業税は0円、法人住民税約7万円(均等割分のみ)。消費税課税売上高(学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など)に係る消費税(本則課税方式)。
- ※22 日本看護系学会協議会8万円、看護系学会等社会保険連合(看保連)7万円。
- ※23 複合機の機種変更に伴い保守管理料が減少している。
- ※24 活動経費支出ではないため予算から削除する。決算時に正味財産増減計算書に表示される。
- ※25 選挙後の役員新任投票にかかわる費用。

第1号議案

法人名：公益社団法人 日本看護科学学会

貸借対照表

平成 29年 3月 31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	132,675,332	108,290,296	24,385,036
未収会費	2,130,000	2,630,000	△ 500,000
未収金	521,964	1,389,946	△ 867,982
たな卸資産	301,095	290,679	10,416
前払費用	3,763,893	3,968,240	△ 204,347
流動資産合計	139,392,284	116,569,161	22,823,123
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
選挙積立預金	1,888,787	1,399,859	488,928
退職給付引当資産	5,096,900	3,878,900	1,218,000
災害看護支援資産	0	78,472	△ 78,472
特定資産合計	6,985,687	5,357,231	1,628,456
(3) その他固定資産			
什器備品	139,863	168,030	△ 28,167
一括償却資産	0	71,656	△ 71,656
リース資産	2,630,880	0	2,630,880
電話加入権	72,030	72,030	0
保証金	1,400,000	1,400,000	0
長期前払費用	0	108,000	△ 108,000
その他固定資産合計	4,242,773	1,819,716	2,423,057
固定資産合計	11,228,460	7,176,947	4,051,513
資産合計	150,620,744	123,746,108	26,874,636
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0	7,000	△ 7,000
前受会費	19,670,000	18,130,000	1,540,000
未払費用	4,402,060	3,753,922	648,138
未払法人税等	70,300	70,000	300
未払消費税等	648,800	244,800	404,000
預り金	158,714	147,590	11,124
短期リース債務	526,176	0	526,176
流動負債合計	25,476,050	22,353,312	3,122,738
2. 固定負債			
長期リース債務	2,104,704	0	2,104,704
退職給付引当金	5,096,900	3,878,900	1,218,000
固定負債合計	7,201,604	3,878,900	3,322,704
負債合計	32,677,654	26,232,212	6,445,442
III 正味財産の部			
1. 基金			
基金	72,926,624	72,926,624	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 指定正味財産			
寄付金	0	78,472	△ 78,472
指定正味財産合計	0	78,472	△ 78,472
(うち特定資産への充当額)	(0)	(78,472)	(△ 78,472)
3. 一般正味財産			
(1) 代替基金	0	0	0
(2) その他一般正味財産	45,016,466	24,508,800	20,507,666
一般正味財産合計	45,016,466	24,508,800	20,507,666
(うち特定資産への充当額)	(1,888,787)	(1,399,859)	(488,928)
正味財産合計	117,943,090	97,513,896	20,429,194
負債及び正味財産合計	150,620,744	123,746,108	26,874,636

貸借対照表内訳表
平成 29年 3月 31日 現在

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	0	0	132,675,332	0	132,675,332
未収会費	0	0	2,130,000	0	2,130,000
未収金	521,964	0	0	0	521,964
たな卸資産	301,095	0	0	0	301,095
前払費用	3,247,375	0	516,518	0	3,763,893
他会計短期貸付金	0	0	31,126,179	△ 31,126,179	0
流動資産合計	4,070,434	0	166,448,029	△ 31,126,179	139,392,284
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
基本財産合計	0	0	0	0	0
(2) 特定資産					
選挙積立預金	0	0	1,888,787	0	1,888,787
退職給付引当資産	0	0	5,096,900	0	5,096,900
特定資産合計	0	0	6,985,687	0	6,985,687
(3) その他固定資産					
什器備品	51,318	2,261	86,284	0	139,863
リース資産	1,558,860	43,106	1,028,914	0	2,630,880
電話加入権	0	0	72,030	0	72,030
保証金	0	0	1,400,000	0	1,400,000
その他固定資産合計	1,610,178	45,367	2,587,228	0	4,242,773
固定資産合計	1,610,178	45,367	9,572,915	0	11,228,460
資産合計	5,680,612	45,367	176,020,944	△ 31,126,179	150,620,744
II 負債の部					
1. 流動負債					
前受会費	0	0	19,670,000	0	19,670,000
未払費用	4,107,097	0	294,963	0	4,402,060
未払法人税等	0	70,300	0	0	70,300
未払消費税等	0	0	648,800	0	648,800
預り金	0	0	158,714	0	158,714
短期リース債務	311,772	8,622	205,782	0	526,176
他会計短期借入金	27,963,047	3,163,132	0	△ 31,126,179	0
流動負債合計	32,381,916	3,242,054	20,978,259	△ 31,126,179	25,476,050
2. 固定負債					
長期リース債務	1,247,088	34,484	823,132	0	2,104,704
退職給付引当金	0	0	5,096,900	0	5,096,900
固定負債合計	1,247,088	34,484	5,920,032	0	7,201,604
負債合計	33,629,004	3,276,538	26,898,291	△ 31,126,179	32,677,654
III 正味財産の部					
1. 基金					
基金	0	0	72,926,624	0	72,926,624
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
2. 指定正味財産	0	0	0	0	0
3. 一般正味財産					
(1) 代替基金	0	0	0	0	0
(2) その他一般正味財産	△ 27,948,392	△ 3,231,171	76,196,029	0	45,016,466
一般正味財産合計	△ 27,948,392	△ 3,231,171	76,196,029	0	45,016,466
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(1,888,787)	(0)	(1,888,787)
正味財産合計	△ 27,948,392	△ 3,231,171	149,122,653	0	117,943,090
負債及び正味財産合計	5,680,612	45,367	176,020,944	△ 31,126,179	150,620,744

正味財産増減計算書

平成 28年 4月 1日 から平成 29年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益			
特定資産受取利息	50	965	△ 915
受取会費			
正会員受取会費	87,990,000	83,890,000	4,100,000
賛助会員受取会費	300,000	300,000	0
受取会費計	88,290,000	84,190,000	4,100,000
事業収益			
学会誌収益	1,362,420	1,476,260	△ 113,840
学術集会収益	47,444,000	41,452,000	5,992,000
広告販売収益	10,795,800	6,705,340	4,090,460
事業収益計	59,602,220	49,633,600	9,968,620
受取寄付金			
受取寄付金	1,650,000	144,000	1,506,000
受取寄付金振替額	78,472	700,000	△ 621,528
受取寄付金計	1,728,472	844,000	884,472
雑収益			
受取利息	379	5,095	△ 4,716
著作権料収益	443,217	433,546	9,671
セミナー収益	5,342,500	4,479,000	863,500
懇親会収益	458,000	698,000	△ 240,000
雑収益	234,000	0	234,000
雑収益計	6,478,096	5,615,641	862,455
経常収益計	156,098,838	140,284,206	15,814,632
(2) 経常費用			
事業費			
期首たな卸高	290,679	288,460	2,219
和文誌発行費	3,450,986	5,505,693	△ 2,054,707
英文誌発行費	17,571,400	18,494,753	△ 923,353
期末たな卸高	△ 301,095	△ 290,679	△ 10,416
給料手当	12,832,073	10,455,792	2,376,281
臨時雇賃金	224,300	154,700	69,600
賞与	1,322,977	621,471	701,506
退職給付費用	1,039,164	447,427	591,737
福利厚生費	2,057,302	1,369,540	687,762
旅費交通費	2,930,029	4,254,539	△ 1,324,510
通信運搬費	3,846,472	3,922,131	△ 75,659
減価償却費	331,185	12,966	318,219
消耗品費	1,439,382	1,144,091	295,291
修繕費	23,017	95,355	△ 72,338
印刷製本費	6,955,398	10,581,653	△ 3,626,255
慶弔費	18,269	22,395	△ 4,126
光熱水料費	408,421	445,607	△ 37,186
賃借料	2,294,031	2,861,596	△ 567,565
保険料	50,838	51,016	△ 178
諸謝金	788,511	1,043,467	△ 254,956
租税公課	989,376	691,203	298,173
支払助成金	0	700,000	△ 700,000
支払寄付金	78,472	0	78,472
委託費	14,123,166	16,141,475	△ 2,018,309
会議費	842,534	1,172,968	△ 330,434
表彰費	177,280	169,720	7,560
渉外費	0	15,130	△ 15,130
会場費	30,503,609	19,820,471	10,683,138
通勤手当	1,040,694	877,663	163,031
雑費	277,240	1,685,956	△ 1,408,716
事業費計	105,605,710	102,756,559	2,849,151

正味財産増減計算書

平成 28年 4月 1日 から平成 29年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
管理費			
給料手当	8,241,792	6,646,989	1,594,803
賞与	849,723	399,159	450,564
臨時雇賃金	21,750	218,000	△ 196,250
退職給付費用	667,436	287,373	380,063
福利厚生費	1,321,364	879,630	441,734
会議費	5,544,174	6,026,990	△ 482,816
渉外費	10,800	10,800	0
旅費交通費	200,711	565,490	△ 364,779
通信運搬費	957,875	1,221,848	△ 263,973
減価償却費	294,814	128,061	166,753
通勤手当	668,416	563,707	104,709
消耗品費	693,690	417,053	276,637
修繕費	14,783	61,245	△ 46,462
印刷製本費	30,731	47,002	△ 16,271
慶弔費	11,731	14,385	△ 2,654
光熱水料費	262,320	286,206	△ 23,886
賃借料	1,473,412	1,837,947	△ 364,535
保険料	32,651	32,768	△ 117
租税公課	20,774	21,651	△ 877
支払負担金	150,000	150,000	0
委託費	3,460,666	4,118,331	△ 657,665
資格喪失者会費	2,390,000	2,370,000	20,000
懇親会費	677,991	1,017,420	△ 339,429
雑費	1,917,558	617,023	1,300,535
管理費計	29,915,162	27,939,078	1,976,084
経常費用計	135,520,872	130,695,637	4,825,235
評価損益等調整前当期経常増減額	20,577,966	9,588,569	10,989,397
当期経常増減額	20,577,966	9,588,569	10,989,397
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損失			
什器備品除却損	0	15,062	△ 15,062
その他の経常外費用			
前期たな卸高修正損	0	20,301	△ 20,301
経常外費用計	0	35,363	△ 35,363
当期経常外増減額	0	△ 35,363	35,363
税引前当期一般正味財産増減額	20,577,966	9,553,206	11,024,760
法人税、住民税及び事業税	70,300	70,000	300
当期一般正味財産増減額	20,507,666	9,483,206	11,024,460
一般正味財産期首残高	24,508,800	15,025,594	9,483,206
一般正味財産期末残高	45,016,466	24,508,800	20,507,666
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金			
受取寄付金	0	60,000	△ 60,000
特定資産受取利息	0	34	△ 34
受取寄付金計	0	60,034	△ 60,034
一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	△ 78,472	△ 700,000	△ 621,528
当期指定正味財産増減額	△ 78,472	△ 639,966	561,494
指定正味財産期首残高	78,472	718,438	△ 639,966
指定正味財産期末残高	0	78,472	△ 78,472
III 基金増減の部			
基金受入額	0	0	0
基金返還額	0	0	0
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	72,926,624	72,926,624	0
基金期末残高	72,926,624	72,926,624	0
IV 正味財産期末残高	117,943,090	97,513,896	20,429,194

正味財産増減計算書内訳表
平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計							収益事業等会計			法人会計	合計
	学術振興事業	学会誌事業	学術集会事業	市民講座等事業	災害看護支援事業	共通	小計	広告販売事業	連携事業	小計		
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
特定資産運用益												
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	50
受取会費												
正会員受取会費	0	0	0	0	0	35,196,000	35,196,000	0	0	0	52,794,000	87,990,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	300,000	300,000	0	0	0	0	300,000
受取会費計	0	0	0	0	0	35,496,000	35,496,000	0	0	0	52,794,000	88,290,000
事業収益												
学会誌収益	0	1,362,420	0	0	0	0	1,362,420	0	0	0	0	1,362,420
学術集会収益	0	0	47,444,000	0	0	0	47,444,000	0	0	0	0	47,444,000
広告販売収益	0	0	0	0	0	0	0	10,795,800	0	10,795,800	0	10,795,800
事業収益計	0	1,362,420	47,444,000	0	0	0	48,806,420	10,795,800	0	10,795,800	0	59,602,220
受取寄付金												
受取寄付金	0	0	1,650,000	0	0	0	1,650,000	0	0	0	0	1,650,000
受取寄付金振替額	0	0	0	0	78,472	0	78,472	0	0	0	0	78,472
受取寄付金計	0	0	1,650,000	0	78,472	0	1,728,472	0	0	0	0	1,728,472
雑収益												
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	379	379
著作権料収益	0	443,217	0	0	0	0	443,217	0	0	0	0	443,217
セミナー収益	4,951,000	391,500	0	0	0	0	5,342,500	0	0	0	0	5,342,500
懇親会収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	458,000	458,000
雑収益	0	234,000	0	0	0	0	234,000	0	0	0	0	234,000
雑収益計	4,951,000	1,068,717	0	0	0	0	6,019,717	0	0	0	458,379	6,478,096
経常収益計	4,951,000	2,431,137	49,094,000	0	78,472	35,496,000	92,050,609	10,795,800	0	10,795,800	53,252,429	156,098,838
(2) 経常費用												
事業費												
期首たな卸高	0	290,679	0	0	0	0	290,679	0	0	0	0	290,679
和文誌発行費	0	3,450,986	0	0	0	0	3,450,986	0	0	0	0	3,450,986
英文誌発行費	0	17,571,400	0	0	0	0	17,571,400	0	0	0	0	17,571,400
期末たな卸高	0	△ 301,095	0	0	0	0	△ 301,095	0	0	0	0	△ 301,095
給料手当	5,246,346	2,017,825	4,963,634	258,972	0	0	12,486,777	172,648	172,648	345,296	0	12,832,073
臨時雇賃金	43,800	31,000	149,500	0	0	0	224,300	0	0	0	0	224,300
賞与	540,894	208,036	511,747	26,700	0	0	1,287,377	17,800	17,800	35,600	0	1,322,977
退職給付費用	424,859	163,407	401,964	20,972	0	0	1,011,202	13,981	13,981	27,962	0	1,039,164
福利厚生費	841,120	323,508	795,794	41,520	0	0	2,001,942	27,680	27,680	55,360	0	2,057,302
旅費交通費	1,445,092	798,617	297,513	382,588	0	0	2,923,810	5,596	623	6,219	0	2,930,029
通信運搬費	820,031	231,647	2,672,017	46,233	0	0	3,769,928	57,047	19,497	76,544	0	3,846,472
減価償却費	136,286	52,719	126,383	6,719	0	0	322,107	4,478	4,600	9,078	0	331,185
消耗品費	484,999	169,835	636,806	114,785	0	0	1,406,425	18,426	14,531	32,957	0	1,439,382
修繕費	9,410	3,619	8,903	465	0	0	22,397	310	310	620	0	23,017
印刷製本費	685,192	75,131	6,059,961	133,826	0	0	6,954,110	644	644	1,288	0	6,955,398
慶弔費	7,469	2,873	7,066	369	0	0	17,777	246	246	492	0	18,269
光熱水料費	166,981	64,224	157,983	8,243	0	0	397,431	5,495	5,495	10,990	0	408,421
賃借料	937,906	360,733	887,365	46,297	0	0	2,232,301	30,865	30,865	61,730	0	2,294,031
保険料	20,785	7,994	19,665	1,026	0	0	49,470	684	684	1,368	0	50,838
諸謝金	178,192	133,411	408,658	68,250	0	0	788,511	0	0	0	0	788,511
租税公課	157,000	77,093	412,939	0	0	0	647,032	342,344	0	342,344	0	989,376
支払寄付金	0	0	0	0	78,472	0	78,472	0	0	0	0	78,472
委託費	2,410,544	757,062	10,524,535	377,247	0	0	14,069,388	26,889	26,889	53,778	0	14,123,166
会議費	81,880	152,642	560,490	37,554	0	0	832,566	9,968	0	9,968	0	842,534
表彰費	0	177,280	0	0	0	0	177,280	0	0	0	0	177,280
会場費	1,331,892	230,069	28,311,795	126,360	0	0	30,000,116	503,493	0	503,493	0	30,503,609
通勤手当	425,484	163,648	402,555	21,003	0	0	1,012,690	14,002	14,002	28,004	0	1,040,694
雑費	0	462	276,778	0	0	0	277,240	0	0	0	0	277,240
事業費計	16,396,162	27,214,805	58,594,051	1,719,129	78,472	0	104,002,619	1,252,596	350,495	1,603,091	0	105,605,710

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1)当法人は、公益法人会計基準（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(2)たな卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっている。

(3)固定資産の減価償却の方法

法人税法の規定に基づき次のとおりの償却方法を採用している。

①什器備品・・・定率法によっている。

②一括償却資産・・・3年間にわたる定額法によっている。

③リース資産・・・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産について、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(4)引当金の計上基準

退職給付引当金・・・当期末退職給与の自己都合要支給額に相当する額を計上している。

(5)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
選挙積立預金	1,399,859	1,000,016	511,088	1,888,787
退職給付引当資産	3,878,900	1,706,600	488,600	5,096,900
災害看護支援資産	78,472	0	78,472	0
災害支援準備資金	0	0	0	0
小 計	5,357,231	2,706,616	1,078,160	6,985,687
合 計	5,357,231	2,706,616	1,078,160	6,985,687

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち基金からの充 当額)	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応す る額)
特定資産					
選挙積立預金	1,888,787	(0)	(0)	(1,888,787)	(0)
退職給付引当資産	5,096,900	(0)	(0)	(0)	(5,096,900)
災害看護支援資産	0	(0)	(0)	(0)	(0)
小 計	6,985,687	(0)	(0)	(1,888,787)	(5,096,900)
合 計	6,985,687	(0)	(0)	(1,888,787)	(5,096,900)

4. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
目的使用による指定解除	78,472

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	2,814,866	2,675,003	139,863
リース資産	3,157,056	526,176	2,630,880

6. リース取引関係

所有権移転外ファイナンス・リース取引は次のとおりである。

リース資産の内容

その他固定資産

事務所において利用している印刷機（什器備品）である。

附属明細書

1. 重要な固定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定資産	選挙積立預金	1,399,859	1,000,016	511,088	1,888,787
	退職給付引当資産	3,878,900	1,706,600	488,600	5,096,900
	災害看護支援資産	78,472	0	78,472	0
	特定資産計	5,357,231	2,706,616	1,078,160	6,985,687
その他固定資産	什器備品	168,030	0	28,167	139,863
	一括償却資産	71,656	0	71,656	0
	リース資産	0	3,157,056	526,176	2,630,880
	電話加入権	72,030	0	0	72,030
	保証金	1,400,000	0	0	1,400,000
	長期前払費用	108,000	0	108,000	0
	その他固定資産計	1,819,716	3,157,056	733,999	4,242,773

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	3,878,900	1,706,600	488,600	0	5,096,900

財 産 目 録
平成 29年 3月 31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元現金 学術集会用小口現金	運転資金として 運転資金として	105,294 3,782
預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店 三菱東京UFJ銀行 本郷支店 三菱東京UFJ銀行 本郷支店 ゆうちょ銀行 七十七銀行 大学病院前支店	運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 学術集会運営資金として	104,183,601 3,421,203 23,172,982 1,468,668 319,802
未収会費	平成28年度会費213名分	会員会費未収金	2,130,000
未収金	株中西印刷 株メテオ	平成29.1～3月分学会誌印税 平成28年度学会誌著作権料	518,400 3,564
たな卸資産	学会誌・学術講演集在庫	学会誌及び学術講演集	301,095
前払費用	㈱プライムアソシエイツ ウィリアム・ルイス・ホルツマー ㈱富士見ビル (フジミビル) 株杏林舎 春日土地㈱ 事務所賃借更新料 平成29.4～12月分 AIU損害保険㈱ 弥生㈱ 株損害保険ジャパン	JJNS編集事務費平成29.4～12月分 JJNS編集長報酬平成29.4～6月分 事務所賃借料平成29.4月分 システム利用料平成29.4～12月分 管理業務の用に供している。 個人情報漏洩保険平成29.4～30.3月分 年間ポータル更新料平成29.4～30.3月分 火災保険料平成29.4.5月分	2,316,600 650,000 288,000 280,775 108,000 76,500 43,200 818
流動資産合計			139,392,284
(固定資産)			
特定資産			
選挙積立預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店	選挙のための資産である。	1,888,787
退職給付引当資産	普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店	退職金の引当資産である。	5,096,900
その他固定資産			
什器備品	東京都文京区本郷3-37-3 オカムラ両開き書庫他5点	共用財産であり、公益目的事業の用に36.7%、収益事業の用に1.6%、管理業務の用に61.7%供している。公益目的事業の用に供している部分は、公益目的保有財産である。	139,863
リース資産	東京都文京区本郷3-37-3 リコーPro C5100SHT	共用財産であり、公益目的事業の用に59.3%、収益事業の用に1.6%、管理業務の用に39.1%供している。公益目的事業の用に供している部分は、公益目的保有財産である。	2,630,880
電話加入権	東京都文京区本郷3-37-3	管理業務の用に供している。	72,030
保証金	東京都文京区本郷3-37-3	管理業務の用に供している。	1,400,000
固定資産合計			11,228,460
資産合計			150,620,744

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)	前受会費	平成29年度会費	平成29年度正会員10,000円×1,937名 平成29年度賛助会員50,000円×6口	19,670,000
	未払費用	㈱JTBコミュニケーションデザイン ㈱プランニングウィル 中西印刷㈱ 日本郵便㈱ 厚生労働省年金局 委員会交通費 オフィスSKD㈱ その他	第37回学術集会運営委託費	1,239,792
			第9回JANSせき運営委託費	1,010,014
			編集事務費	800,388
			JANS37案内パンフレット他	697,551
			社会保険料(H29.3月分)	258,274
			3月27日第3回委員会交通費9名	238,036
未払法人税等	本郷税務署 東京都千代田都税事務所	平成28年度法人税	300	
		平成28年度法人都民税	70,000	
未払消費税等	本郷税務署	平成28年度消費税及び地方消費税	648,800	
預り金	事務所員 中村コンサルティングオフィス、他5名	給与源泉税・住民税	109,010	
		報酬源泉税	49,704	
短期リース債務	日通商事㈱東京支店	平成29年度リース料	526,176	
流動負債合計				25,476,050
(固定負債)	長期リース債務	日通商事㈱東京支店	平成30～33年度リース料	2,104,704
	退職給付引当金	事務所員7名分	平成29年3月末日要支給額	5,096,900
固定負債合計				7,201,604
負債合計				32,677,654
正味財産				117,943,090

平成28年度 収支計算書

平成28年 4月 1日 から平成 29年 3月 31日 まで

科 目	備考	平成28年度 予算額 (H. 28. 4. 1～ H. 29. 3. 31)	平成28年度 決算額 (H. 28. 4. 1～ H. 29. 3. 31)	差異	執行率 (%)
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
①特定資産運用収入		1,000	50	950	5.0
特定資産受取利息収入		1,000	50	950	5.0
②会費収入		88,800,000	88,290,000	510,000	99.4
正会員会費収入	※1	88,500,000	87,990,000	510,000	99.4
賛助会員会費収入	※2	300,000	300,000	0	100.0
③学会誌収入(講演集含む)	※3	480,000	1,362,420	△ 882,420	283.8
④寄附金収入(学術集会社まず)		0	0	0	0.0
⑤雑収入		4,525,000	6,020,096	△ 1,495,096	133.0
受取利息収入		3,000	379	2,621	12.6
著作権料収入		200,000	443,217	△ 243,217	221.6
セミナー収入	※4	4,322,000	5,342,500	△ 1,020,500	123.6
その他雑収入	※5	0	234,000	△ 234,000	0.0
⑥学術集会収入		53,758,000	60,347,800	△ 6,589,800	112.3
学術集会参加費収入		41,400,000	47,444,000	△ 6,044,000	114.6
事前登録会員(10,000円)	※6	15,000,000	20,490,000	△ 5,490,000	136.6
事前登録非会員(12,000円税込)		5,400,000	5,088,000	312,000	94.2
事前登録学部生(3,000円税込)		150,000	252,000	△ 102,000	168.0
当日登録会員(12,000円)		14,400,000	13,932,000	468,000	96.8
当日登録非会員(14,000円税込)		6,300,000	7,532,000	△ 1,232,000	119.6
当日登録学部生(3,000円税込)		150,000	150,000	0	100.0
寄附金・助成金収入		1,000,000	1,650,000	△ 650,000	165.0
広告販売収入		10,358,000	10,795,800	△ 437,800	104.2
企業展示出展料		4,806,000	6,881,400	△ 2,075,400	143.2
広告掲載料		2,549,000	2,100,000	449,000	82.4
スポンサードセミナー		3,003,000	1,814,400	1,188,600	60.4
懇親会収入		950,000	458,000	492,000	48.2
その他雑収入		50,000	0	50,000	0.0
事業活動収入合計(I a)		147,564,000	156,020,366	△ 8,456,366	105.7
2. 事業活動支出					
①事業費支出		89,232,000	79,264,993	9,967,007	88.8
学会誌発行費支出		19,212,000	21,022,386	△ 1,810,386	109.4
和文誌編集費支出		3,300,000	3,450,986	△ 150,986	104.6
英文誌編集費支出	※7	15,912,000	17,571,400	△ 1,659,400	110.4
編集活動費支出		2,075,000	1,133,855	941,145	54.6
和文誌編集委員会費支出		830,000	637,928	192,072	76.9
英文誌編集委員会費支出		1,245,000	495,927	749,073	39.8
看護学術振興費支出		4,256,000	2,207,388	2,048,612	51.9
研究・学術情報委員会費支出		960,000	534,988	425,012	55.7
国際活動推進委員会費支出		680,000	360,747	319,253	53.1
看護学学術用語検討委員会費支出		1,186,000	521,962	664,038	44.0
看護倫理検討委員会費支出		600,000	146,108	453,892	24.4
表彰論文選考委員会費支出		220,000	23,904	196,096	10.9
若手研究推進委員会支出		610,000	541,207	68,793	88.7
災害看護支援助成金支出	※8	0	78,472	△ 78,472	0.0
研究学術活動費支出		4,622,000	4,359,644	262,356	94.3
受賞論文表彰費支出		180,000	177,280	2,720	98.5
研究倫理審査委員会費		120,000	3,142	116,858	2.6
JANSセミナー開催費	※9	2,677,000	3,483,872	△ 806,872	130.1
JJNSセミナー開催費		1,645,000	695,350	949,650	42.3
社会的活動費支出		1,718,000	1,193,567	524,433	69.5
社会貢献委員会支出(市民フォーラム開催費含む)		868,000	591,484	276,516	68.1
広報委員会費支出	※10	850,000	602,083	247,917	70.8

平成28年度 収支計算書

平成28年 4月 1日 から平成 29年 3月 31日 まで

科 目	備考	平成28年度 予算額 (H. 28. 4. 1～ H. 29. 3. 31)	平成28年度 決算額 (H. 28. 4. 1～ H. 29. 3. 31)	差異	執行率 (%)
学術集会費支出		57,349,000	49,348,153	8,000,847	86.0
当年度開催学術集会		55,149,000	46,642,787	8,506,213	84.6
会場費支出	※11	37,623,000	28,815,288	8,807,712	76.6
会議費支出		2,085,000	561,839	1,523,161	26.9
旅費交通費支出		2,300,000	150,640	2,149,360	6.5
消耗品費支出		350,000	205,842	144,158	58.8
通信運搬費支出	※12	468,000	1,393,836	△ 925,836	297.8
印刷製本費支出		1,532,000	4,749,665	△ 3,217,665	310.0
委託費支出	※13	6,616,000	9,253,722	△ 2,637,722	139.9
人件費支出		674,000	149,500	524,500	22.2
謝金支出		891,000	408,658	482,342	45.9
賃借料支出		250,000	0	250,000	0.0
渉外費支出		150,000	0	150,000	0.0
雑支出		1,130,000	275,806	854,194	24.4
懇親会運営費支出		1,080,000	677,991	402,009	62.8
次年度開催学術集会（準備期間）		2,200,000	2,705,366	△ 505,366	123.0
会場費支出		0	0	0	0.0
会議費支出		70,000	8,619	61,381	12.3
旅費交通費支出		500,000	133,940	366,060	26.8
消耗品費支出		20,000	17,084	2,916	85.4
通信運搬費支出（パンフレット送料含む）	※14	801,000	755,203	45,797	94.3
印刷製本費支出（パンフレット印刷含む）		609,000	1,291,788	△ 682,788	212.1
委託費支出		200,000	497,760	△ 297,760	248.9
人件費支出		0	0	0	0.0
謝金支出		0	0	0	0.0
雑支出		0	972	△ 972	0.0
②管理費支出		53,300,000	52,032,296	1,267,704	97.6
給料手当支出	※15	21,330,000	23,246,565	△ 1,916,565	109.0
福利厚生費支出		3,150,000	3,378,666	△ 228,666	107.3
通勤費支出		1,800,000	1,709,110	90,890	95.0
退職給付支出		300,000	488,600	△ 188,600	162.9
学会総会費	※16	500,000	237,400	262,600	47.5
社員総会費		3,900,000	3,228,962	671,038	82.8
理事会費		2,650,000	2,072,773	577,227	78.2
委託費支出	※17	5,260,000	5,071,456	188,544	96.4
渉外費支出		30,000	10,800	19,200	36.0
旅費交通費支出		40,000	76,022	△ 36,022	190.1
消耗品費支出	※18	2,320,000	1,773,729	546,271	76.5
通信運搬費支出		2,130,000	2,379,807	△ 249,807	111.7
印刷製本費支出		96,000	78,580	17,420	81.9
慶弔費支出		50,000	30,000	20,000	60.0
光熱水料費支出		804,000	670,741	133,259	83.4
賃借料支出	※19	4,630,000	3,767,443	862,557	81.4
保険料支出		85,000	83,489	1,511	98.2
諸謝金支出		50,000	0	50,000	0.0
租税公課支出	※20	1,072,000	1,010,150	61,850	94.2
負担金支出		150,000	150,000	0	100.0
修繕費支出		202,000	37,800	164,200	18.7
選挙費用支出		740,000	511,088	228,912	69.1
雑支出		1,500,000	1,915,394	△ 415,394	127.7
総務委員会費支出	※21	35,000	3,060	31,940	8.7
利益相反委員会		456,000	90,720	365,280	19.9
広報委員会費支出	※22	20,000	9,941	10,059	49.7
③その他の支出		2,000,000	2,460,300	△ 460,300	123.0
資格喪失者会費支出	※23	2,000,000	2,390,000	△ 390,000	119.5
法人税、住民税及び事業税	※24	0	70,300	△ 70,300	0.0
事業活動支出合計（I b）		144,532,000	133,757,589	10,774,411	92.5
事業活動収支差額（I a）-（I b）		3,032,000	22,262,777	△ 19,230,777	734.3

平成28年度 収支計算書

平成28年 4月 1日 から平成 29年 3月 31日 まで

科 目	備考	平成28年度 予算額 (H. 28. 4. 1~ H. 29. 3. 31)	平成28年度 決算額 (H. 28. 4. 1~ H. 29. 3. 31)	差異
Ⅱ 投資活動収支の部（資金の内部移動）				
1. 投資活動収入（各積立金を取り崩し、それを資金として使用する）				
選挙積立取崩（選挙費用として使用）		740,000	511,088	228,912
退職給付引当資産取崩		300,000	488,600	△ 188,600
災害看護支援資産取崩（災害看護支援助成金へ）		0	78,904	△ 78,904
長期前払費用振替収入（事務所更新料）		105,000	108,000	△ 3,000
投資活動収入合計（Ⅱa）		1,145,000	1,186,592	△ 41,592
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える）				
選挙積立預金		1,000,000	1,000,016	△ 16
退職給付引当金積立		800,000	1,706,600	△ 906,600
災害看護支援資産事業積立		0	432	△ 432
什器備品購入支出		105,000	0	105,000
投資活動支出合計（Ⅱb）		1,905,000	2,707,048	△ 802,048
投資活動収支差額（Ⅱa）-（Ⅱb）		△ 760,000	△ 1,520,456	760,456
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計（Ⅲa）		0	0	0
2. 財務活動支出				
リース債務返済支出		0	526,176	△ 526,176
財務活動支出合計（Ⅲb）		0	526,176	△ 526,176
財務活動収支差額（Ⅲa）-（Ⅲb）		0	△ 526,176	526,176
Ⅳ 他会計振替額		0	0	0
Ⅴ 予備費支出		3,000,000	0	3,000,000
当期収支差額		△ 728,000	20,216,145	
前期繰越収支差額		58,091,270	93,925,170	
次期繰越収支差額		57,363,270	114,141,315	

- ※1 平成28年度会費として請求した金額を計上。
平成28年中に納入された会費は、平成27年度未収会費 26名分、平成28年度会費 6799名分（新入会811名、再入会86名含む）、平成29年度前受会費 1934名分。平成27年度中に納入された平成28年度会費 1785名分は27年度決算に算入済。平成28年度会費未納者は215名（うち2名は請求対象外）。平成28年度会費の納入率（8584名/8799名 97.6%）。
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版・ヌーヴェルヒロカワ 各1口。会費1口50,000円
- ※3 和文誌の無料公開に伴う減少を見込んでいた定期購読者数が想定を上回った。学術集会講演集の電子化により参加者配布をしないうため販売数が増加した。
和文誌36巻 518,400円 80冊/定期購読（図書館等） <別途、中西印刷より直接販売・会員（9冊）>
和文誌35巻（バックナンバー） 25,920円 4冊/単発販売（非会員） <別途、中西印刷より直接販売・会員（2冊）>
36回講演集 815,400円（302冊）<定期購読86冊・当日販売216冊>
講演集バックナンバー2,700円（2冊）<単発販売（非会員）>
- ※4 JANSセミナー参加費 <6月開催 1,894,000円（会員184名×4,000円、非会員41名×6,000円、WEB456名×2,000円）>、<3月開催 3,057,000円（会員163名×5,000円、非会員29名×8,000円、WEB670名×3,000円）> Web受講（会員のみ）が増加傾向である。
JJNSセミナー参加費 <11月開催114,000円（会員78名×1,000円、非会員12名×3,000円）>
- ※5 英文誌投稿論文超過ページ課金 120,000円（投稿規程：刷り上がりで11頁を超えた場合 1頁2万円として課金）。
和文誌セミナー参加費（和文誌編集委員会）<3月開催 114,000円（会員78名×1,000円、非会員12名×3,000円）>
- ※6 参加を3700人と見込んでいたが、事前557名（会員549名・非会員△26名・学部生34名）、当日49名（会員△39名・非会員88名）合計606名多かった。
- ※7 平成27年の投稿数307編から平成28年度は340編の投稿があったことで編集経費予算を上回った。
- ※8 災害看護支援事業（助成事業）の休止にあたり、同事業の預金残高全額（78,472円）を熊本県看護協会へ寄附した。
- ※9 WEB参加者の増加によりテキストの印刷費・郵送費等が膨らんだことや、会場に民間施設を利用したこと等により予算を上回った。
- ※10 【広報委員会の活動のうち、市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェに関する経費を事業費に計上した。】
- ※11 会場施設を効率的に運用し会場費を抑えたことに加え、施設利用料の値引き等もあって予算金額を大きく下回った。
- ※12 当初予定していなかったプログラム集（9500部）の冊子版を作成したため、印刷代・郵送料等が膨らみ、予算を上回った。
- ※13 今回から本格的に電子版抄録集（Web・アプリ）の導入を行ったため、環境設定や利用料等により予算を上回った。
- ※14 次年度に支払いを予定していたポスター・フライヤーを早く作成し、年度内に支払ったため印刷費やデザイン料等により予算を上回った。
- ※15 事務所長の予算を6ヵ月としていたが実際には9ヵ月であった。11月から産前産後休暇となった職員がおり、代わりの職員を11月から雇用したが、産前産後休暇中の職員にも12月から3月まで給与を支給したため増額となった。
- ※16 定例理事会6回（5月、6月、9月、10月、12月、2月）、社員総会2回（6月・12月）、学会総会1回（12月/学術集会の会場を使用）。
- ※17 会員管理システム利用料（197万円）<基本利用料（95万）、コンビニ決済機能（22万）、学術集会参加登録・行事管理機能（66万）、アンケート機能（14万）>、JANSホームページ年間維持更新管理料（55万円）、ホームページ英訳費用（5万円）、Web会議システム（44万円）、会計顧問料（76万円）、公認会計士監査報酬（36万円）、顧問弁護士（39万円）、事務所警備委託費（21万円）、封入委託費（8万円）、職員採用費用（22万）他。
- ※18 複合機の機種変更により専用紙を利用しなくなったため軽減されている。
- ※19 機種変更前は賃借料処理をしていた複合機のリース料金を、公益法人会計基準に基づき「リース資産」に計上し、「リース債務」として会計処理をしたため予算を下回った。
- ※20 消費税課税売上高（学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など）に係る消費税（原則課税方式）。
- ※21 【総務委員会活動費は公益認定上の区分に準じて管理費に計上した。】
- ※22 【広報委員会の活動のうち、委員会開催費（会議費）を管理費に計上した。】
- ※23 平成27（2015）年度会費を未納のため資格喪失者となり退会した会員分の会費
- ※24 収益事業（学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入）に係る法人税 300円、法人都民税約7万円（均等割分のみ）。

監査報告書

公益社団法人日本看護科学学会

理事長 萱間 真美 様

平成 28 年(2016 年)4 月 1 日から平成 29 年(2017 年)3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1. 監査の方法及びその内容

私ども監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について監査いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表(貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書、財産目録)および収支計算書について監査いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

(2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 29 年(2017 年)4 月 27 日

公益社団法人日本看護科学学会

監事 阿曾 洋子 ⑩

監事 南 裕子 ⑩

独立監査人の監査報告書

平成29年4月25日

公益社団法人日本看護科学学会
理事長 萱間 真美 殿

牧真之介公認会計士事務所

公認会計士 牧 真 之 介 ⑩

<財務諸表監査>

私は、公益社団法人日本看護科学学会の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの平成28年度の貸借対照表及び損益計算書(公益認定等ガイドライン - 5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。)並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表(以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。)について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽の表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

私は、公益社団法人日本看護科学学会の平成29年3月31日現在の平成28年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本看護科学学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

理事選任案

現理事任期満了(平成29年6月18日)による新理事の選任について

	氏名	所属
1	秋元典子	甲南女子大学
2	石橋みゆき	千葉大学大学院
3	江藤宏美	長崎大学
4	鎌倉やよい	日本赤十字豊田看護大学
5	小山真理子	日本赤十字広島看護大学
6	佐伯由香	愛媛大学
7	真田弘美	東京大学大学院
8	須釜淳子	金沢大学
9	高田早苗	日本赤十字看護大学
10	田中真琴	東京医科歯科大学大学院
11	中山洋子	高知県立大学大学院
12	西村ユミ	首都大学東京
13	宮下美香	広島大学大学院
14	村嶋幸代	大分県立看護科学大学
15	山本則子	東京大学大学院

(以上15名、五十音順)

第3号議案

名誉会員の承認について

名誉会員についての定款上の規定

第12条 名誉会員は、看護学の発展に多大の寄与をした者の中から、理事会及び社員総会の承認を得たものとする。

2 名誉会員は、社員総会に出席し意見を述べることができる。

3 第1項の承認について、理事長は、学会総会に報告しなければならない。

第14条 会員は、社員総会で定める会費を納めなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、名誉会員は、会費の納入を要しない。

名誉会員推薦についての理事会申し合わせ事項 (2016年10月23日改正)

1) 「看護学の発展に多大の寄与をした」ことの解釈・・・次のいずれかに該当すること。

- ① JANSの理事長を務めた。
- ② JANSの役員を通算5期務めた。監事1期は理事2期として数える。
- ③ JANSの学術集会会長、国際学術集会会長を務めた。
- ④ 上記①～③に相当する働きをしたと理事会が認めた。
- ⑤ その他・・・看護学の発展に格段の貢献をした。

2) 下記の各項目に全て該当すること

- a 満70歳以上
- b 常勤の現職のないこと
- c 理事・社員でないこと
- d 本人の同意があること

平成 29 年 6 月社員総会で名誉会員に推薦する会員

	川村 佐和子 氏
会 員 歴	1985 年 9 月 14 日～現在 (32 年)
学術集会会長歴	第 20 回日本看護科学学会学術集会会長 (2000 年)
役 員 代 議 員 歴	監 事 2002 年～2004 年、 評 議 員 1999 年～2001 年、2002 年～2004 年 代 議 員 2007 年～2011 年、2011 年～2015 年

平成 29 年 6 月社員総会で名誉会員に推薦する会員

	小島 操子 氏
会 員 歴	1981 年 7 月 25 日～2017 年 3 月 31 日 (36 年)
学術集会会長歴	第 3 回国際看護学術集会会長 (1998 年)
役 員 代 議 員 歴	理 事 1984 年～1986 年、1987 年～1989 年、1993 年～1995 年、 1996 年～1998 年、2002 年～2004 年、2005 年～2007 年 監 事 2011 年～2015 年 評 議 員 1984 年～1986 年、1987 年～1989 年、1993 年～1995 年 1996 年～1998 年、2002 年～2004 年、2005 年～2007 年 代 議 員 2011 年～2015 年、2015 年～2017 年

JANS の論点整理

平成 29 年 6 月 1 日

平成 27 年度～28 年度理事会

1. 今期理事会までの学会の取り組み

平成 23 年 6 月、JANS 将来構想委員会（内布敦子委員長）では、下記 4 点が JANS の課題として挙げられた。

本学会は看護学の学術性を高める役割を担っている。公益法人化を機会に公益性の高い学会として、看護学の学術性の充実を通して社会への貢献をさらに推進する必要がある。

- ① 看護の学術向上においては牽引力としての役割があり、学術性を高めるために質の高い論文を創出できる仕組みと学術コミュニティの形成が期待されている。
- ② 40 代の会員を中心とする壮年層の比率が多い学会であり、若手育成を図るとともに若手および壮年層からの役員委員登用によって重要課題や公益性の高い事業に取り組む必要がある。
- ③ 学会会員数、活動内容、財政面の動向を分析すると、会員の自然増は限られており、現状のまま本学会が現在の活動を維持していくことは経済的に難しくなる。学会の方向性を明らかにした上で、経済的基盤を安定させるための方策を検討する必要がある。

平成 23 年 6 月に発足した理事会（小松浩子理事長）では、将来構想報告書に挙げられた課題を受け、下記の取り組みを行った。

1) 将来構想に基づく新たな取り組み

- ①若手研究者育成のための新規事業の検討
- ②学術振興事業検討委員会の設立
- ③JANS セミナーの実施

2) 財務基盤安定化に向けての取り組み

- ①学会誌の電子化準備
- ②選挙の電子化
- ③遠隔会議システムの導入
- ④受取会費配分率の変更

平成 27 年 6 月、JANS 学術振興事業検討委員会（田村やよひ委員長・理事長）は、これらの課題について下記のように現状を評価した。

- ①会員数は平成 23 年度当時より約 30%増加し、将来的には会員 1 万人を超えるマンモス学会に発展する可能性がでてきた。
- ②財務状況は、会員数の増加と学会誌の電子ジャーナル化を初めとする多面的な節約努力および学術集会の収益増により徐々に改善し、平成 25 年度から基金を割り込むことなく黒字に転じた。
- ③若手研究者育成のための新規事業として、平成 26 年度に若手研究推進委員会を常設委員会として設置し、日本学術会議の若手アカデミーに登録した。
- ④会員の研究能力向上への取り組みとして JANS セミナーを年 2 回企画し、各種研究法等について実施した。参加希望者が多いため、平成 27 年には Web 参加を取り入れたところ、好評であった。
- ⑤Up-to-Date な政策提言作りについては、組織作りと事務所体制の変革が求められる。
- ⑥今後の学術振興に向けた活動として、他の学問領域との連携・協働等のほか、本会賛助会員の拡大の取り組みが効果的と考えられる。

平成 27 年 6 月に発足した理事会では、平成 29 年 6 月現在の学会について運営と活動の状況を整理し、さらに JANS のミッションについて提言する。

2.学会の運営状況

- ① 平成 29 年 6 月 1 日現在の会員数は 8,525 件（正会員 8,505 名、賛助会員 5 件、名誉会員 15 名、海外会員 16 名含む）である。特に正会員は過去 5 年間で 25%増えており、年毎に見ると平成 24 年 5.5%、25 年 8.2%、26 年 5.6%、27 年 4.3%、28 年 4.9%の増加率である。着実に増加しているため、今後たゆまない学会活動が継続されることを前提として、正会員数が 1 万人を超える日は来るだろう。マンモス学会としての運営を視野に置く必要がある。海外会員は、選挙人名簿では東京 A 地区に所属している。海外における研究活動の動向や、英文誌の査読を始めとする研究活動の協働において重要な役割を担うことが期待されることから、海外会員から代議員が選出できるシステムについて検討することが必要である。
- ② 財務状況は各委員会の合理化と学術集会の成果によって黒字が確かなものとなっており、平成 28 年度決算は、7,200 万円の当初の基金を確保したうえで約 4,100 万円の次期繰越金を有している。会費収入による安定した運営と、学術集会好調時の収入を保ったこと、活発な委員会活動や好評を保っているセミナーの合理的な運営、事務所機能の充実がこれを支えている。そして増加した次期繰越金の活用については、研究助成や若手の育成（特に、ポスドク）・研究発表への助成など JANS ならではの公益事業としての活用を考える必要がある。

3.公益事業の実施状況と論点

JANSの公益事業は下記である。以下、項目ごとに実施状況を整理するとともに、今後のさらなる発展に向けての論点を提示する。

① 看護学の振興に資する各種委員会活動

・若手研究推進

前期理事会で注力した若手研究推進事業を常設の若手研究推進委員会とし、委員長は日本学術会議若手アカデミーとの連携をとりつつ理事として学会運営に参画している。平成28年度より、年に2回開催していたJANSセミナーの1回を同委員会が所掌し、若手会員対象Web調査に基づいて設定したテーマで開催しているほか、学術集会での若手会員対象企画を展開しており、多くの参加者を集めた。さらに若手のMLや学術集会時のオフ会を通して、若手研究者間のネットワーク形成も活発に行われている。今後若手研究者グループからの看護界への提言等のさらなる発信が期待される。

・セミナー事業

会員の研究遂行能力向上を目的として、JANSセミナーを計4回（うち3回を研究・学術情報委員会、1回を若手研究推進委員会が所掌）開催し、延べ参加者2,874人（Web受講者含む）を集め好評を得ている。また、英文誌、和文誌編集委員会企画も論文執筆・公表をテーマにセミナーを開催しておりこちらも好評を得ている。4つの委員会がそれぞれにセミナーを企画運営している。各委員会の現状に即した問題意識からの企画を尊重しつつ、学会員のニーズに応じた内容を提供するためには、各委員会委員長によるセミナー企画委員会を組織し、系統的な企画や情報提供を行う必要がある。

・看護学の優先課題設定

看護学のさらなる発展につながる優先順位の高い研究上の課題を設定し、課題対応のために整備すべき体制を提示するために、有識者へのインタビューおよび代議員・委員を対象としたデルファイ調査を実施した。その結果、看護に関するシステムティックレビュー、看護のアウトカム評価のための大規模コホート研究の推進、学際的研究の推進等の課題の重要性が広く認知されていた。一方、社会的要請は高いが、その重要性が認知されていない萌芽的な課題もあった。整備すべき体制として学際的研究者育成、研究成果の海外発信の促進等が挙げられた。今後は、これらの課題に関する研究活動の推進基盤の整備、および萌芽的な研究への支援体制の構築が、学会として注力すべき活動といえる。そのため、研究・学術情報委員会において、関連する課題への研究助成、留学支援および生涯学習機会の提供といった人材育成支援に学会として注力する必要がある。

・国際活動

国際活動推進委員会が行うWANS事務局の運営は、公益事業として正式に登録され、2年ごとに国際学術集会を開催している。学会としてのグローバル化に対する対応策については、JANS第34回学術集会から交流集会（English session）を開催して国際活動に関心を持つ会員間の情報交換を行ったり、会員に看護学のグローバルスタンダードや

国際活動のあり方について現状を把握するための調査を実施したりして検討を重ねてきたが、海外の学術団体等とのネットワークの構築は不十分で、課題として残されている。

② 学会誌の発行

和文誌と英文誌双方をもつことは、JANSにとって重要である。大学教員の英語論文の発表の重要性は増しており、会員が英語論文を発表しやすく、同時に国際的に価値の高い英文誌を発行し続けることは学会の使命である。和文誌には、特に日本の臨床現場に求められる知を創出し、研究知見を臨床で一層活用できるようにする役割があり、どちらも重要である。

英文誌 JJNS の発行には、運営の基本となる編集長、編集事務局の確保と、投稿受付から公表までのプロセス遂行に相当の編集費用を要する。JJNS は投稿費をとらない方針をとっており、編集費用は学会が負担しているが、近年は外国からの投稿が大幅に増加しており、編集費用の継続的な増加も見込まれる。

今期理事会では、学会誌発行の本学会活動における重要性を再確認するとともに、学会活動の発展を継続するために他学会の状況を鑑み、次の基準について合意を得た。

本学会 8,525 件の学会費収入に対して英文誌と和文誌を合わせた学会誌編集・発行費の上限を 30%以内とする。それを超えた場合は、再度英文誌の編集方針を、出版社および編集長との契約内容を含めて再考することとしたい。

③ 学術集会の開催

平成 27 年、28 年の学術集会参加者数は下記である。

	場 所	参加者数
JANS35	広島国際会議場	3,736
JANS36	東京国際フォーラム	4,306

学術集会が大規模となるにつれ、それに応じた大会場の選択が必要となっている。そのような大規模会場では運営委託業者が固定化していたり、運営委託業者に関する情報の伝達が不十分であったりすることがあり、学術集会会長が運営に苦慮する場面もみられている。

学術集会は、学会の公益事業であるという会計の構造上、学術集会運営事務局に加え、学会事務所の関与が年々大きくなっている。学術集会の収益は学会会計にも大きな影響を及ぼすため、学術集会の予算規模の拡大とともに準備のプロセスで事務局が果たす役割は大きくなっている。今期理事会では、常勤の事務所長を公募によって採用し、常勤職員を軸とした事務所体制の整備に努めてきた。今後は、学会事務所が蓄積した学術集会運営委託業者や会場に関する情報を、各回の学術集会運営事務局と共有し有効活用する仕組みを整備し、大規模な学術集会であることを前提としたサポート体制の検討が必要である。現状では、抄録アプリを複数年契約し、学術集会のフィードバックを元に改良することがで

きるようになっている。

JANS は学術集会運営方法についても他学会が学ぶことができる、先端を担う役割を持っている。このような役割を果たすために現在の参加費が適切であるかどうかについては今後検討が必要となるであろう。

④ 市民を対象とした公開講座の開催

学術集会では、社会貢献推進委員会により市民の関心が高いテーマと開催地の地域性の両方を考慮し、市民公開講座が行われている。これに加え、広報委員会による企画「看護研究の玉手箱」は、表彰委員会と連携し、JANS の表彰論文を市民向けにわかりやすく発信する作業を行っている。これらの活動は、看護学の知識を市民にとってよりアクセスしやすいものとし、市民の健康生活に具体的に資するもののうち重要なものとして継続していく。今後は、これらの活動への市民からのフィードバックを得ながら、さらに市民にわかりやすく、有益な活動となるよう改善を図る。ナーシング・サイエンス・カフェについては、学術集会の主催地で学会と同時期に開催している。この時期の開催は高校生にとっては参加しにくいとも指摘されており、夏季の開催等、中高生が看護職への志向性を高め、市民への情報提供の一端を担うための開催時期、方法、内容について検討する必要がある。

4. 社会情勢と学会の役割

① 時代が求める課題

市民や学会員のニーズに応じるために、これまで述べたような活発な学会活動を行うためには、人のあり方の多様性への理解の上にある、学問の自由が尊重されることが前提となる。

平成 26 年度には一般社団法人日本看護系学会協議会との共同で「災害看護支援事業」として、災害看護支援金による支援活動の助成を行った。この共同体制は同協議会の法人化により解消したが、学術団体として JANS が災害時にどのような体制で貢献すべきかについて、日本看護系学会協議会による災害連携会議や国際フォーラムへの参加などを含めて諸規定の整備とともに引き続き検討が必要である。

平成 29 年 6 月現在の世界情勢は、地球規模の気候変動や地殻の変動ともなう大規模な災害が頻発し、経済では保護主義、政治の右傾化、テロによる市民生活への影響等がみられる。これらの混沌とした動きのなかにあっても、市民の健康を専一とする看護学がなす貢献について、JANS は学術団体として意見をタイムリーに発信する必要がある。現在、日本学術会議によって「軍事的安全保障研究に関する声明」が出され、科学者コミュニティとしての議論と共通認識の形成を呼びかけている。JANS は会員とともに真摯な議論を行い、意見を表明する必要がある。

② 研究倫理の課題

JANS は看護研究の倫理規範「脳死及び臓器移植に関する重要事項について日本看護科学

学会看護倫理検討委員会の見解」(平成4年)、「個人情報保護に関する法律施行に伴う日本看護科学学会の見解」(平成18年)、「日本看護科学学会 科学者の行動規範」(平成21年)、「日本看護科学学会における研究活動に係る不正行為への対応」(平成21年)を公表するなど、看護学研究者と社会との関係や責務についての態度を社会に示してきた。これらの声明は看護学のスタンスを市民に示すものとして影響力をもった。

平成27年からは利益相反の申告がスタート、第36回学術集会からは学会発表時の利益相反申告も行われた。看護倫理検討委員会による「JANS会員における研究不正防止活動及び研究倫理遵守の状況」の調査結果が報告され(平成28年)、研究不正に関しては「見解」「行動者規範」レベルに留まっている現状と課題が明示された。平成29年2月には、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の改正が行われ、JANSとしては看護研究における指針の準用について会員に情報提供を行う必要がある。併せて、社会に貢献する質の高い研究ができるよう研究者倫理教育など看護の研究をリードする学会として力を入れていく必要がある。なお、同年3月には、日本学術会議が「軍事的安全保障研究に関する声明」を発表した。そこには、それぞれの学術分野の性格に応じてガイドライン等を制定することが示されており、今後の課題としたい。

③ 今後へ向けて

平成28年12月の社員総会において、このような社会状況と学会の使命について理事長挨拶で触れているが、今後も看護学の研究者集団として、社会情勢や、市民からのニーズに対応する見解を示す必要がある場面で、合意形成のプロセスを経て社会への発信を積極的に行っていくために、情報の収集・整理、発信のシステムを整備する。

研究成果の市民への還元と看護学研究の発展に寄与することでJANSは前進を続ける。

平成 27 年度～平成 28 年度理事会

【理事】

氏 名	所属機関	分掌事項
萱間 真美	聖路加国際大学	理事長
井上 智子	国立看護大学校	副理事長/研究倫理審査委員長
村嶋 幸代	大分県立看護科学大学	会計
麻原 きよみ	聖路加国際大学	総務委員長
勝原 裕美子	オフィス KATSUHARA	広報委員長
鎌倉 やよい	日本赤十字豊田看護大学	看護倫理検討委員長
グレッグ 美鈴	神戸市看護大学	英文誌編集委員長
酒井 郁子	千葉大学大学院	研究・学術情報委員長
真田 弘美	東京大学	表彰論文選考委員長
高田 早苗	日本赤十字看護大学	看護学術用語検討委員長
中山 洋子	高知県立大学	国際活動推進委員長
西垣 昌和	京都大学大学院	英文誌編集委員会/研究・学術情報委員会
西村 ユミ	首都大学東京大学院	若手研究推進委員長
山本 則子	東京大学	和文誌編集委員長
吉沢 豊予子	東北大学大学院	社会貢献委員長/利益相反委員長

【監事】

氏 名	所属機関
阿曾 洋子	武庫川女子大学
南 裕子	高知県立大学